

ロータリー100年委員会 アンケート結果報告書

株式会社ロードフロンティア
代表取締役 並木将央



RI第1第2第3ゾーン
地域別会員増強計画プロジェクトリーダー補佐
鈴木隆志（東京西RC）

調査内容

全国のロータリークラブへアンケート調査を行いました。
調査内容は以下の通りとなっています。

① 調査の目的

全国のロータリークラブの現状の活動について及び日本のロータリー発足より100周年を迎えるにあたっての意識調査のため

② 調査対象

全国のロータリークラブ（2,264件） 除くPB

③ 調査方法

インターネットによるWEBアンケートにより調査を行った。

④ 調査期間

平成29年4月19日～平成29年5月31日

⑤ 有効回答数：1,392件

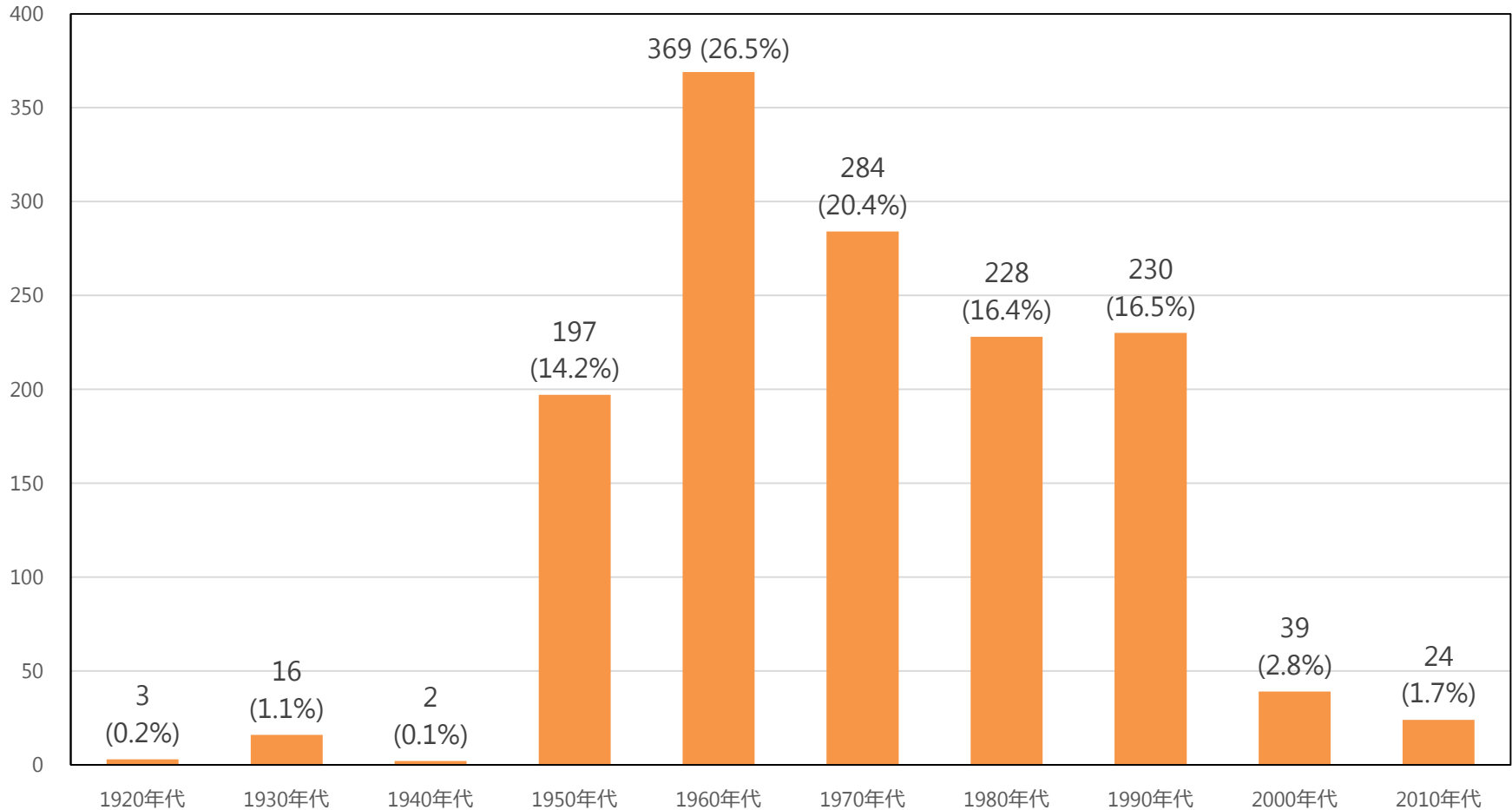
⑥ アンケート回収率：61.4%

期間が短い今回のアンケートでありましたが、全国のクラブの60%以上という大変高い回答率のご報告をできました。あらためまして、クラブ及び、回答率向上にご協力を頂いた皆様に御礼を申し上げます。

また、今回のWEBを活用する方法が意見集約に効果的でありましたこと、ご報告させていただきます。

回答クラブの属性分布(設立年)

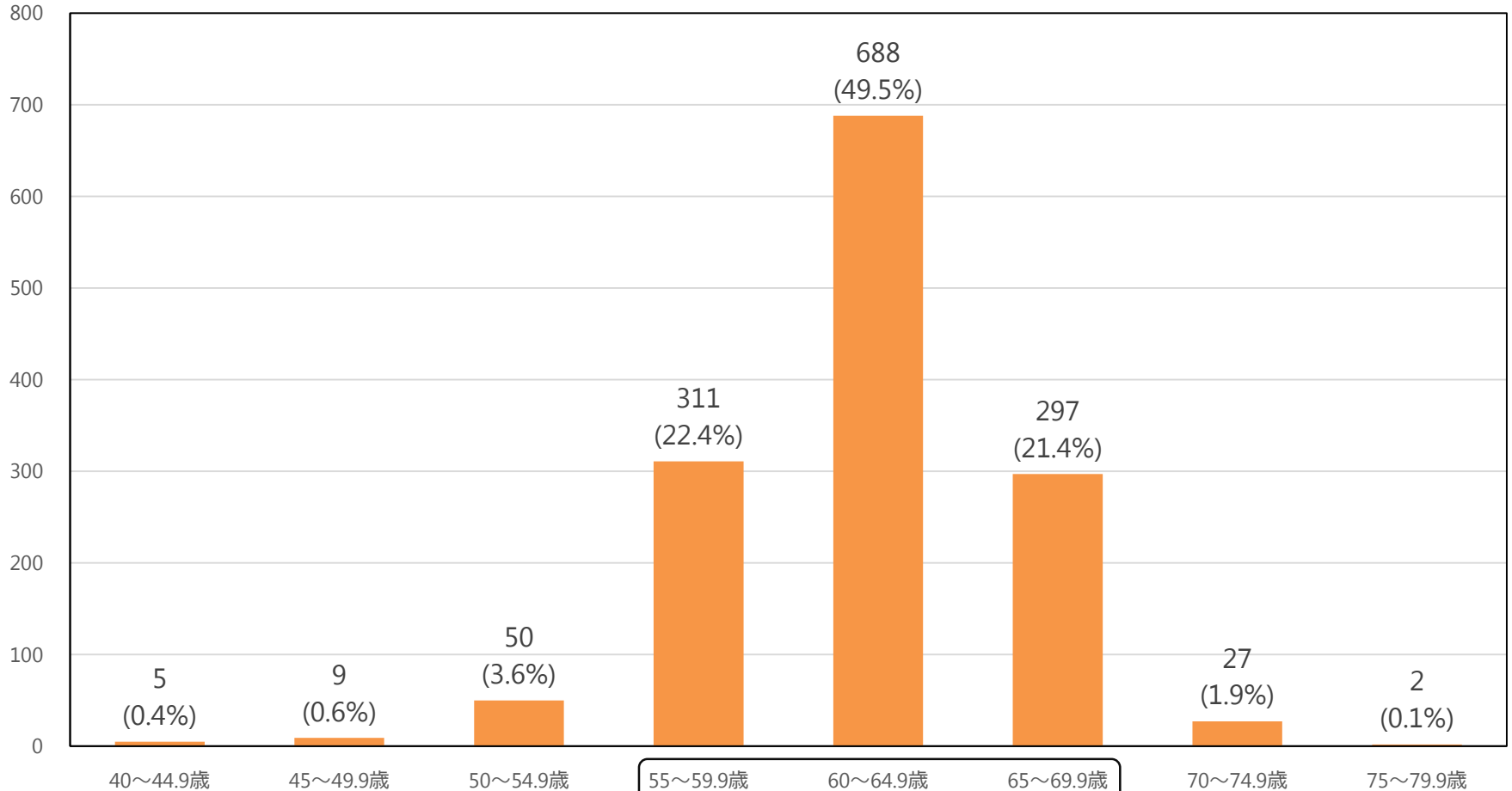
回答をいただいたロータリークラブの属性分布となります。



1950年代～1990年代に多くのロータリークラブが設立されたことが分かります。
特に1960年代には活発な拡大が行われました。

回答クラブの属性分布(平均年齢)

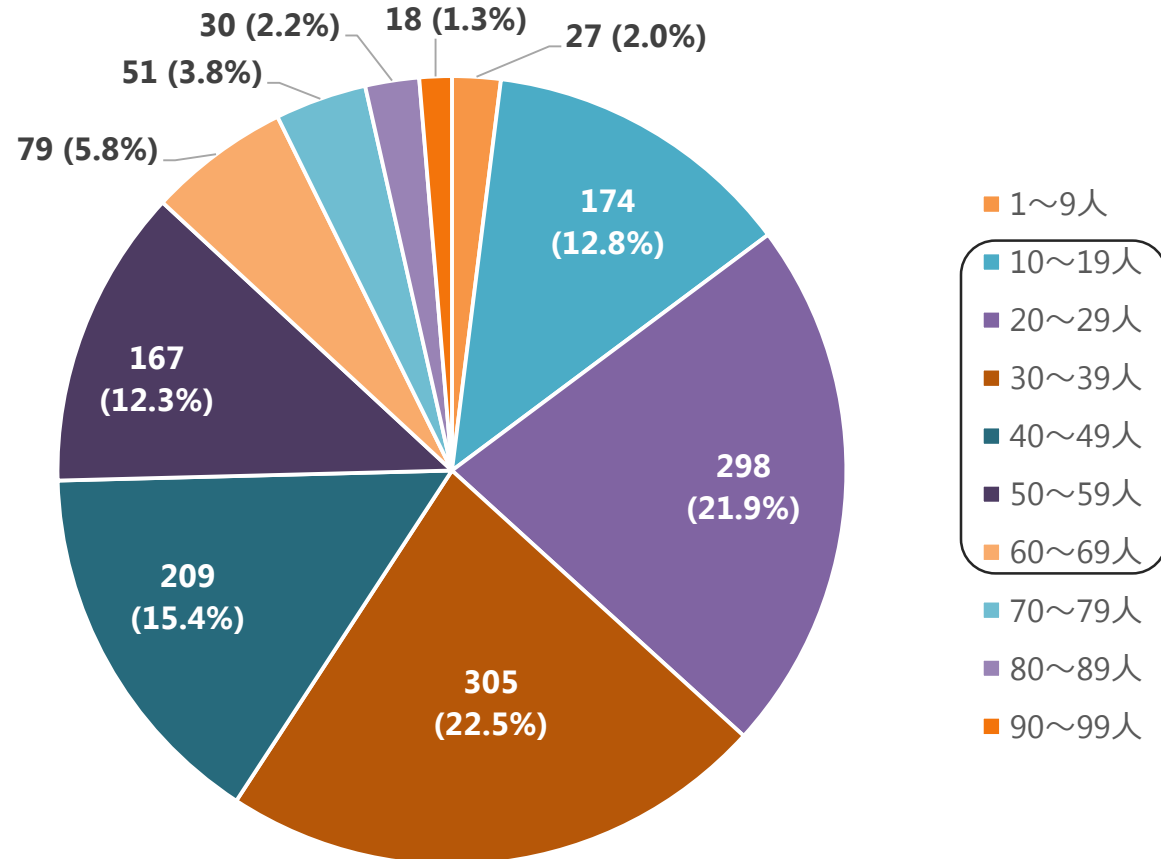
回答をいただいたロータリークラブの属性分布となります。



60～64.9歳が日本のロータリークラブの平均が多いことが分かります。
以下の分析では55歳～69.9歳がアンケートの93.3%を占め中心的な回答となります。

回答クラブの属性分布(会員数)

回答をいただいたロータリークラブの属性分布となります。

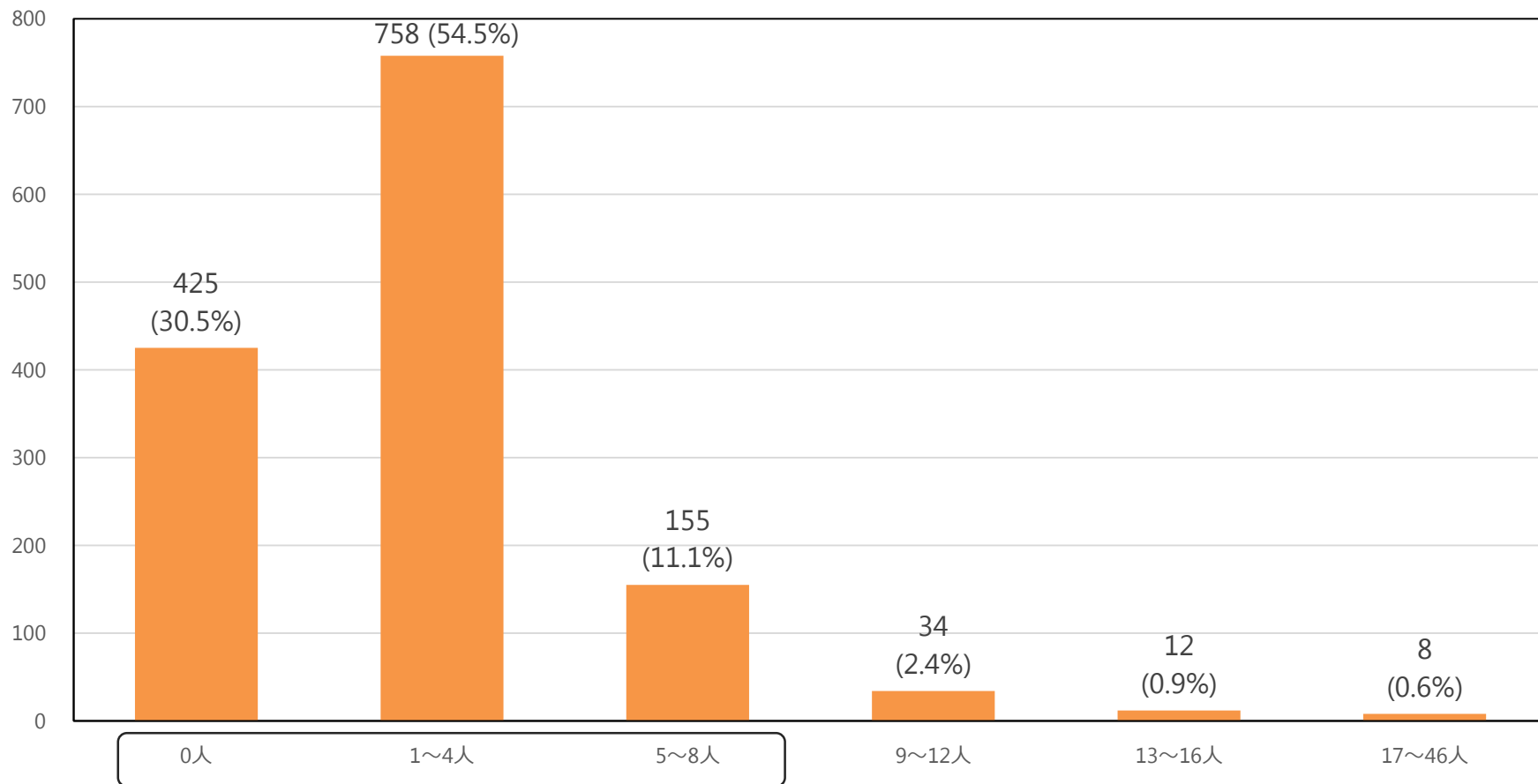


2016年7月1日時点の会員数（現況報告書の情報）

20~40人の範囲が一番多いことが分かります。（日本の平均は38名）
以下の分析では10人~69人がアンケートの90.7%を占め中心的な回答となります。

回答クラブの属性分布(女性会員数)

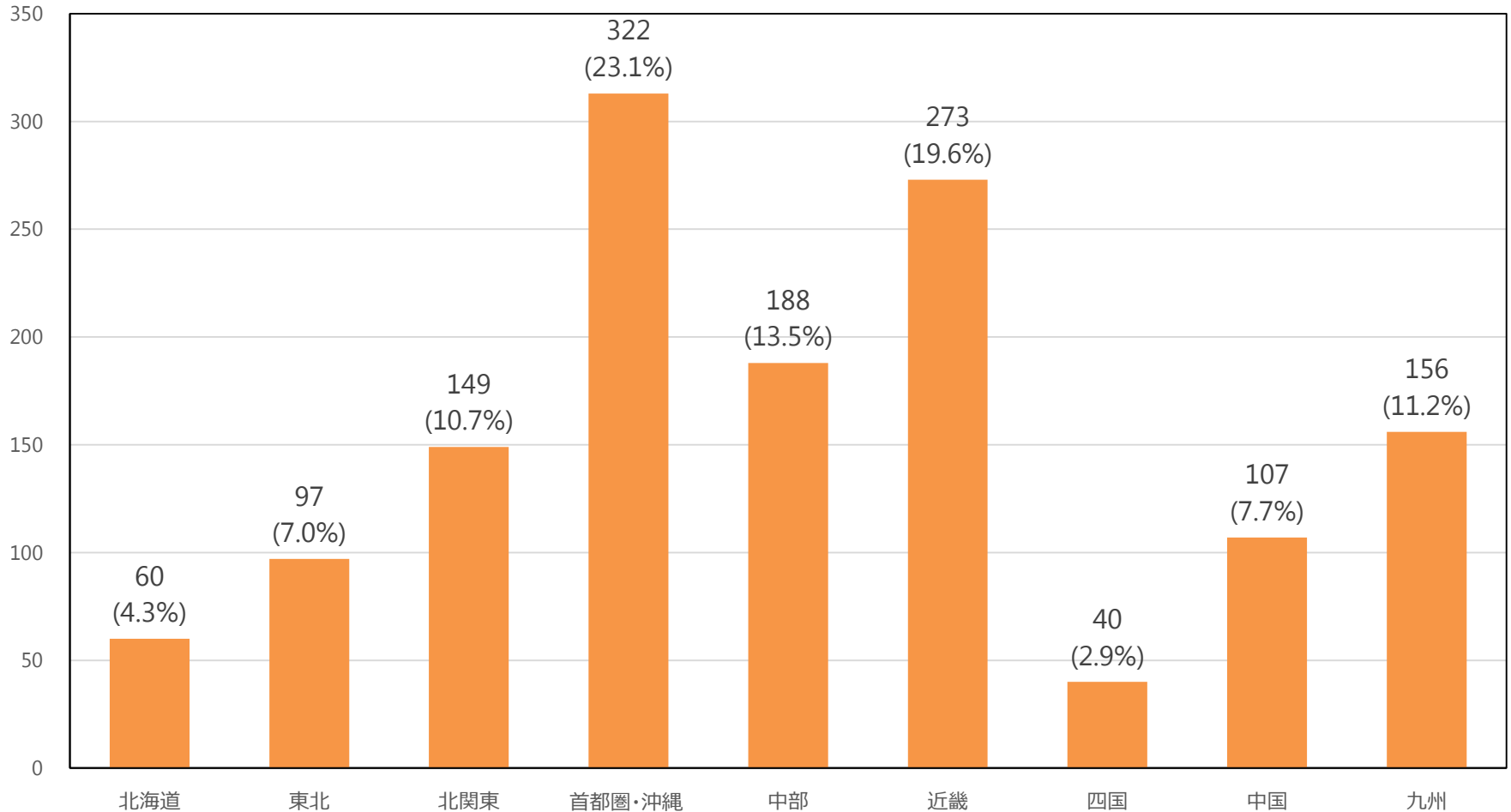
回答をいただいたロータリークラブの属性分布となります。



1~4人が圧倒的に多く、0人も含めると女性会員数は少ない傾向にあります。クラブの平均会員数が38名であることを考えると、女性会員は10%以下となります。まだまだ、各クラブにて女性の会員増強は重要課題であると考えます。

回答クラブの属性分布(地域別)

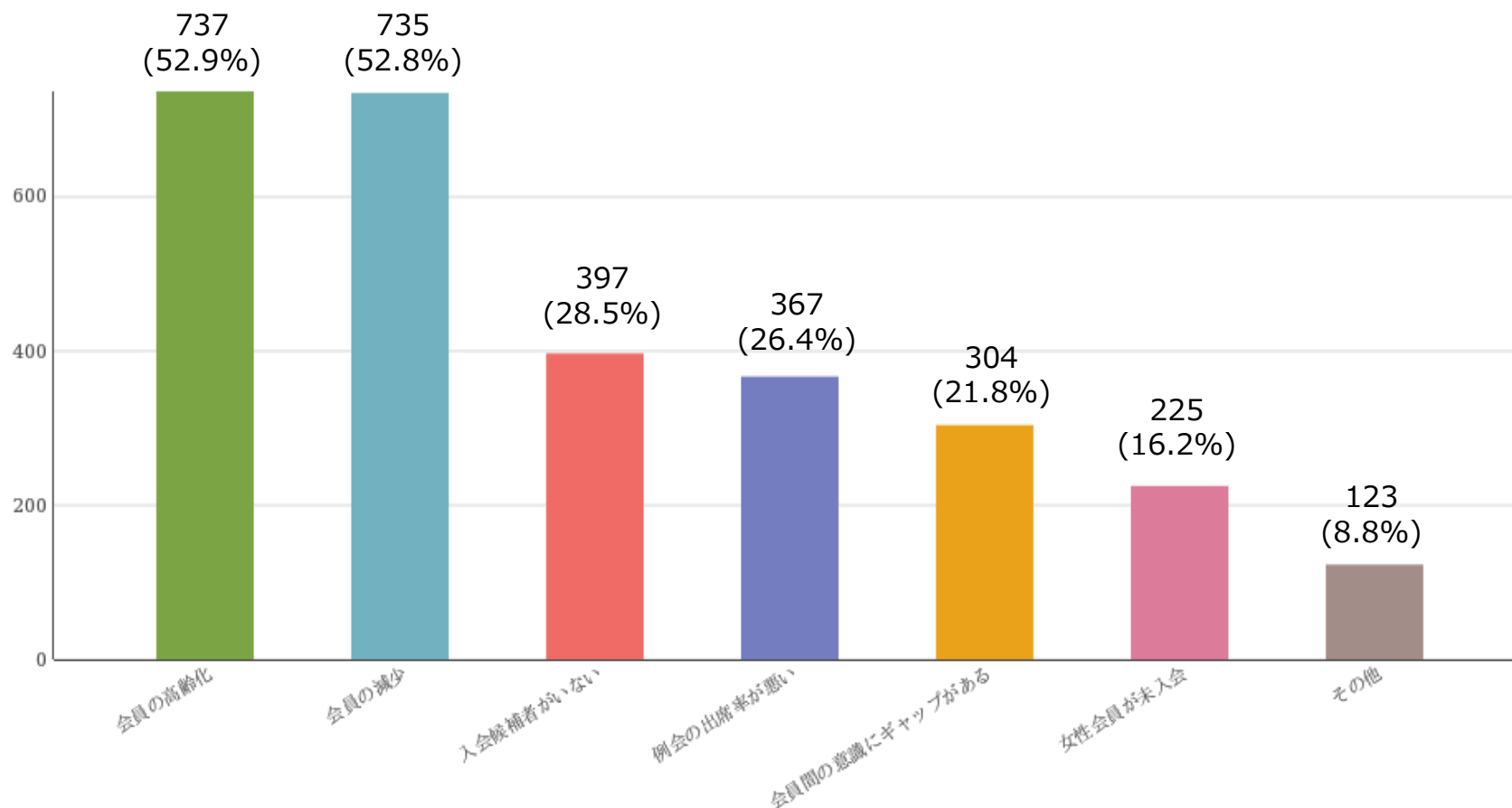
回答をいただいたロータリークラブの属性分布となります。



今回のアンケートはやはり首都圏（含む沖縄）に集中しており、次いで近畿地方、中部地方九州地方が多い結果となっています。

回答結果まとめ（全体数）

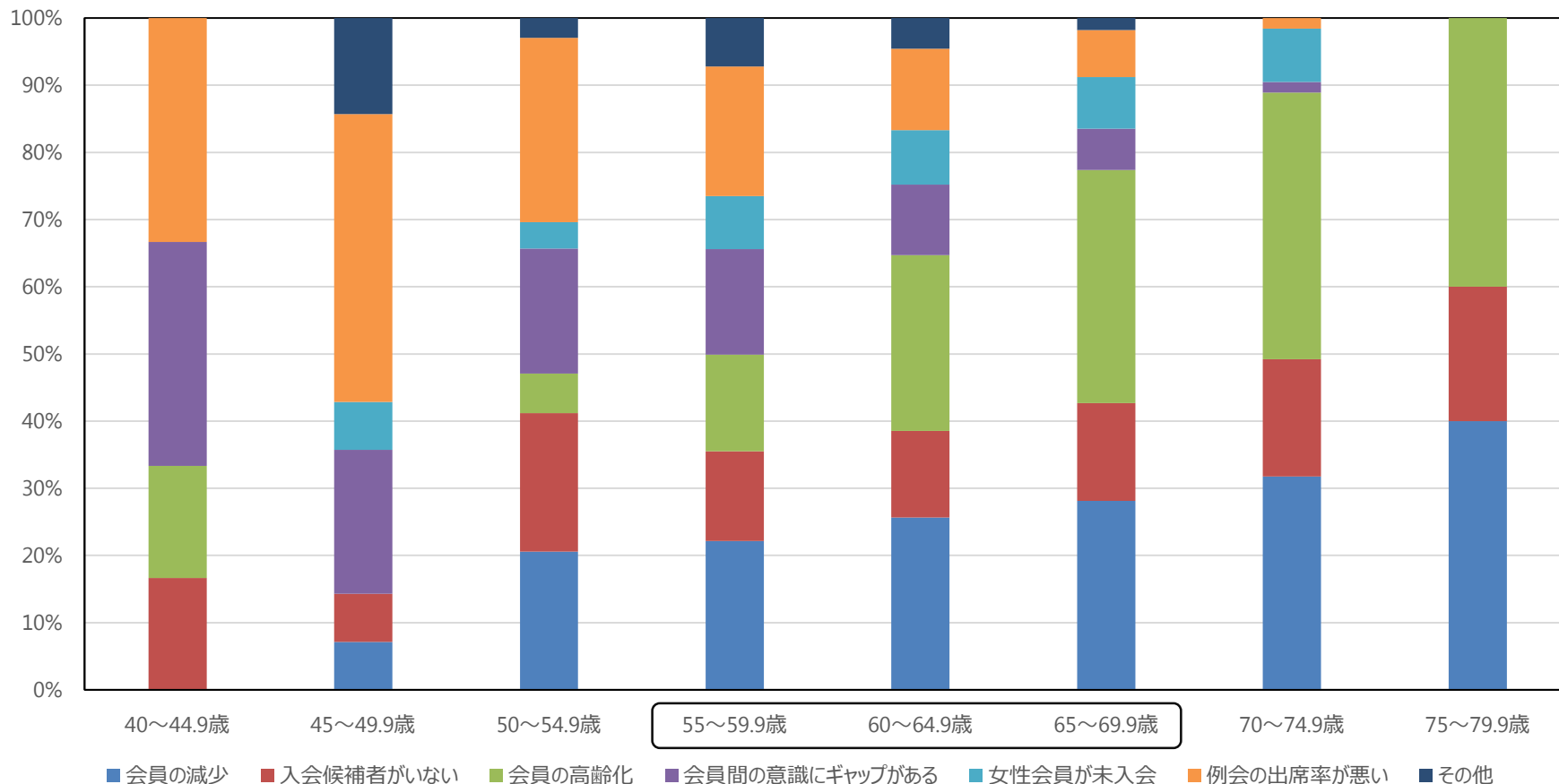
1.あなたのクラブが直面している大きな課題は何ですか？（複数回答可）
・会員について



「会員の高齢化」と「会員の減少」が大きな課題となりました。また「入会候補者がいない」事も多く、会員増強がクラブの大きな問題になっております。クラブの活性化が急務と考えられます。

回答結果まとめ（平均年齢別）

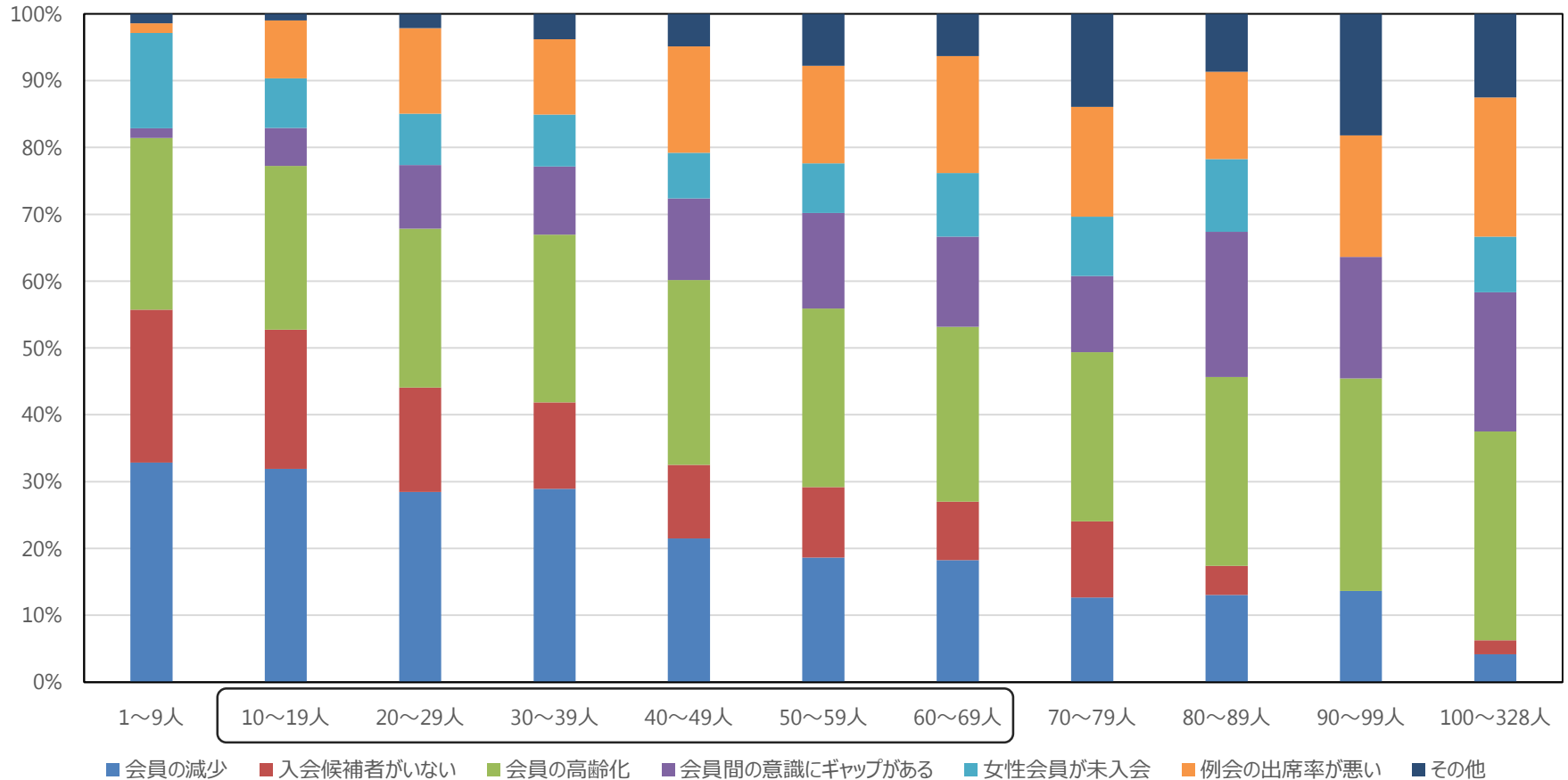
1.あなたのクラブが直面している大きな課題は何ですか？（複数回答可）
・会員について



平均年齢の高いクラブが「高齢化、減少」がともに上昇傾向にあり、会員増強に関する危機感が高いことが明白になっております。逆に平均年齢の若いクラブは「会員間のギャップ」が大きいです。

回答結果まとめ（会員数別）

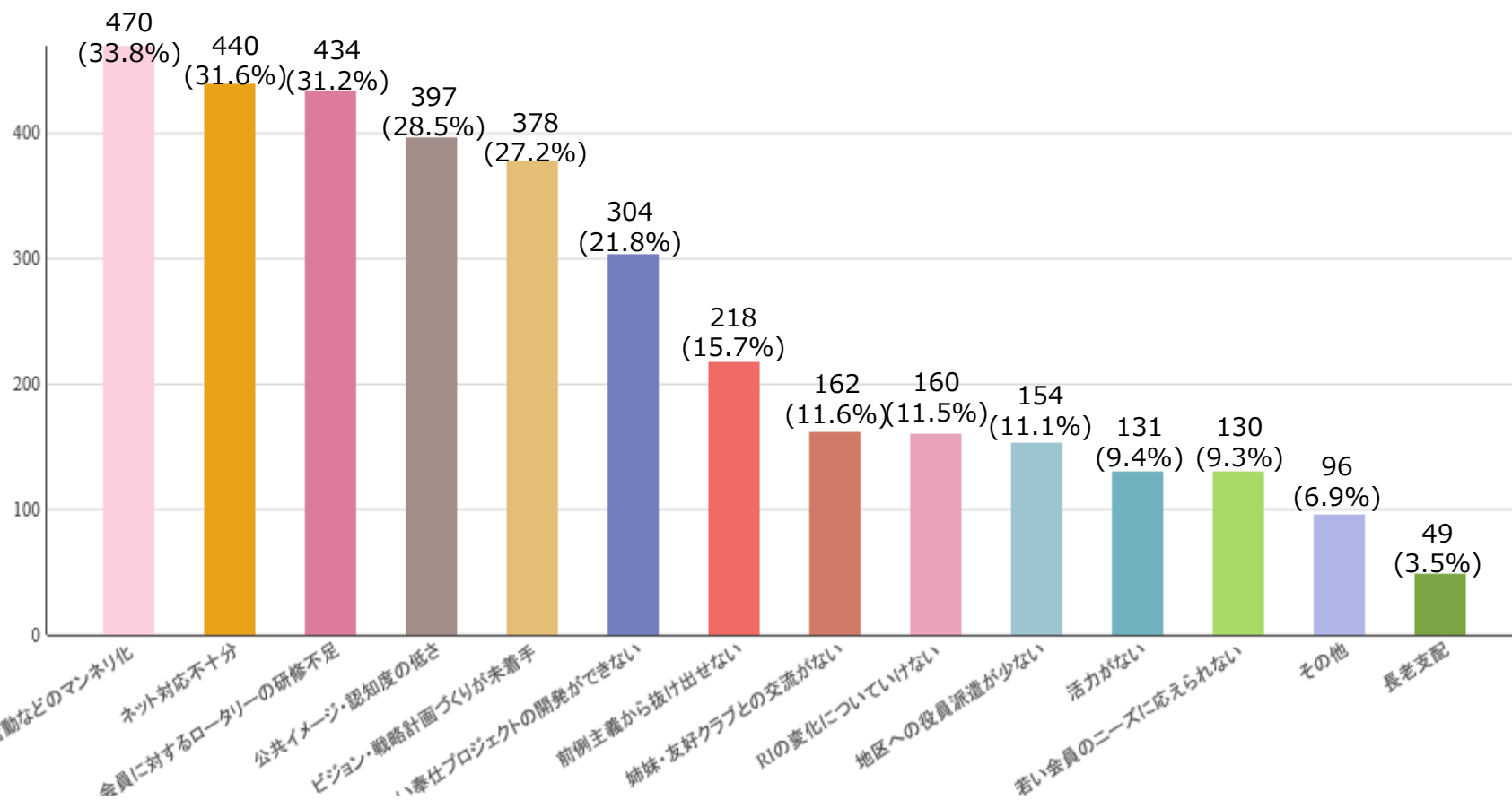
1.あなたのクラブが直面している大きな課題は何ですか？（複数回答可）
・会員について



会員数別にみると会員が少ないほど会員減少が課題でありのが明確です。
会員の高齢化はクラブの規模に関係なく、課題であることが考えられます。

回答結果まとめ(全体数)

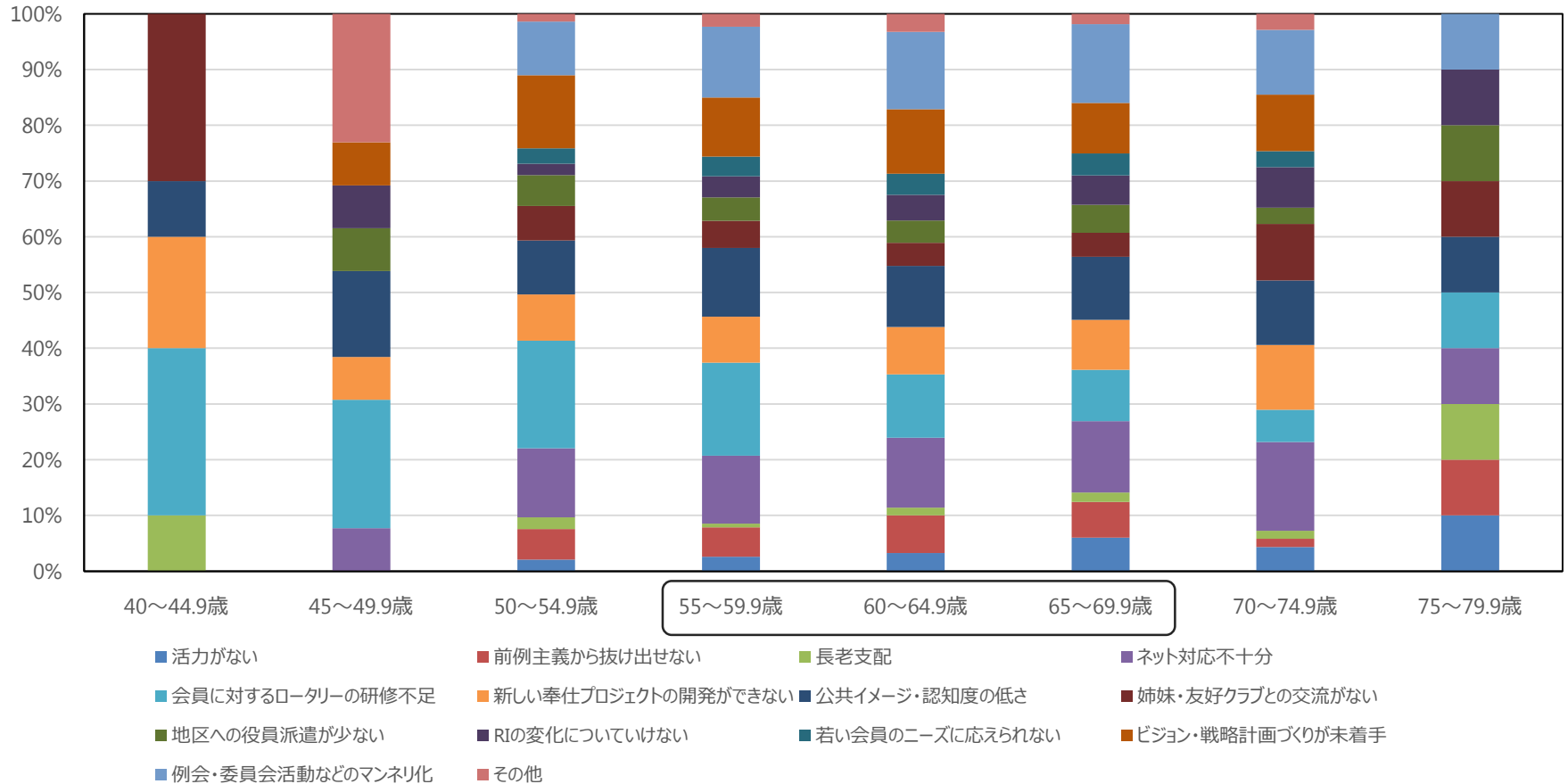
1.あなたのクラブが直面している大きな課題は何ですか？（複数回答可）
・クラブ運営について



マンネリ化やネット対応不十分といった項目が上位を占めています。その意味でのクラブの活性化は必要です。
また「研修不足」や「公共イメージの向上」「クラブ運営」についての問題意識も高いです。

回答結果まとめ(平均年齢別)

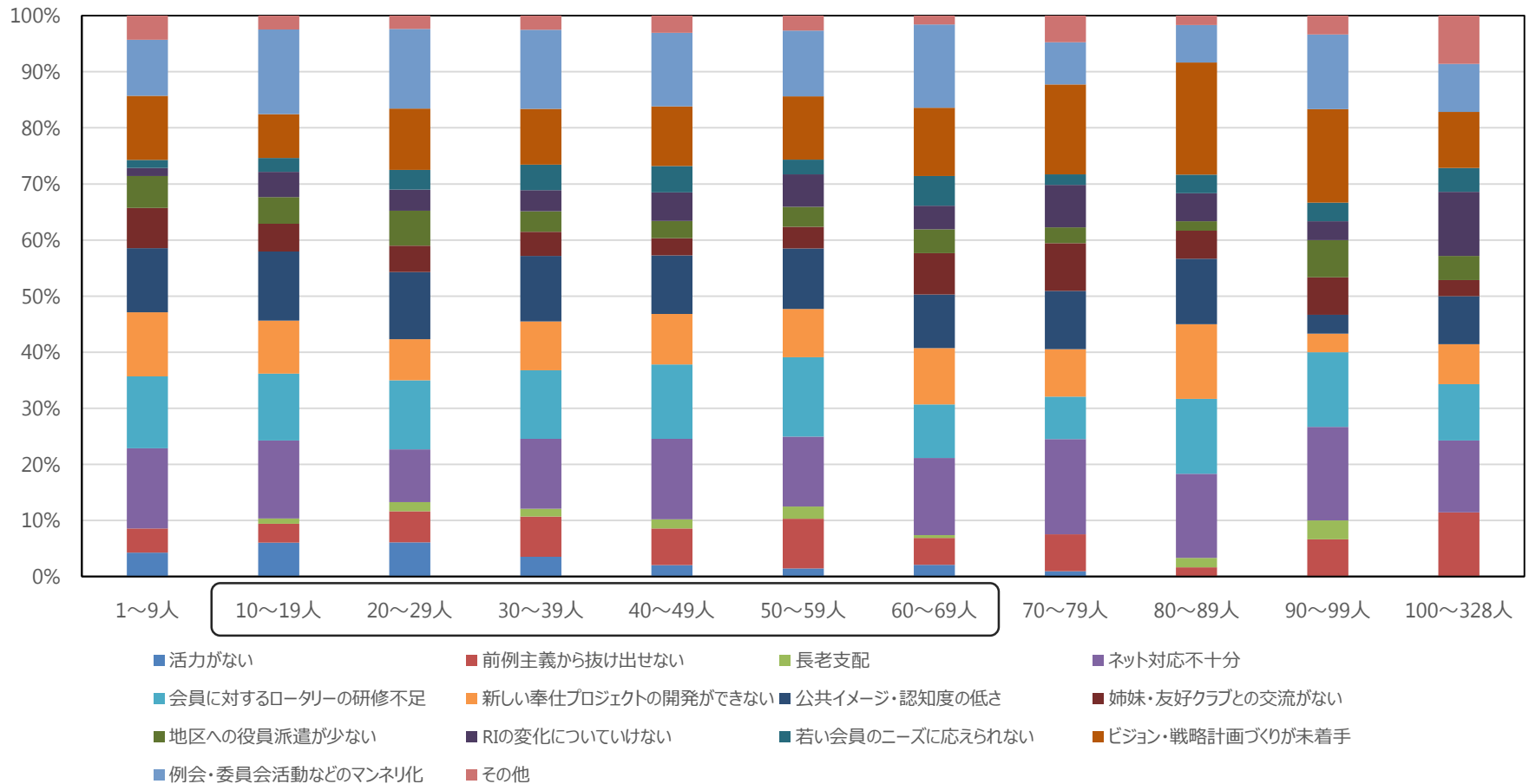
1.あなたのクラブが直面している大きな課題は何ですか？（複数回答可）
・クラブ運営について



平均年齢が若いクラブほど、ロータリーについて勉強する機会が無いと考えているようです。
また、多くのクラブが「活動のマンネリ化」という課題を抱えています。

回答結果まとめ(会員数別)

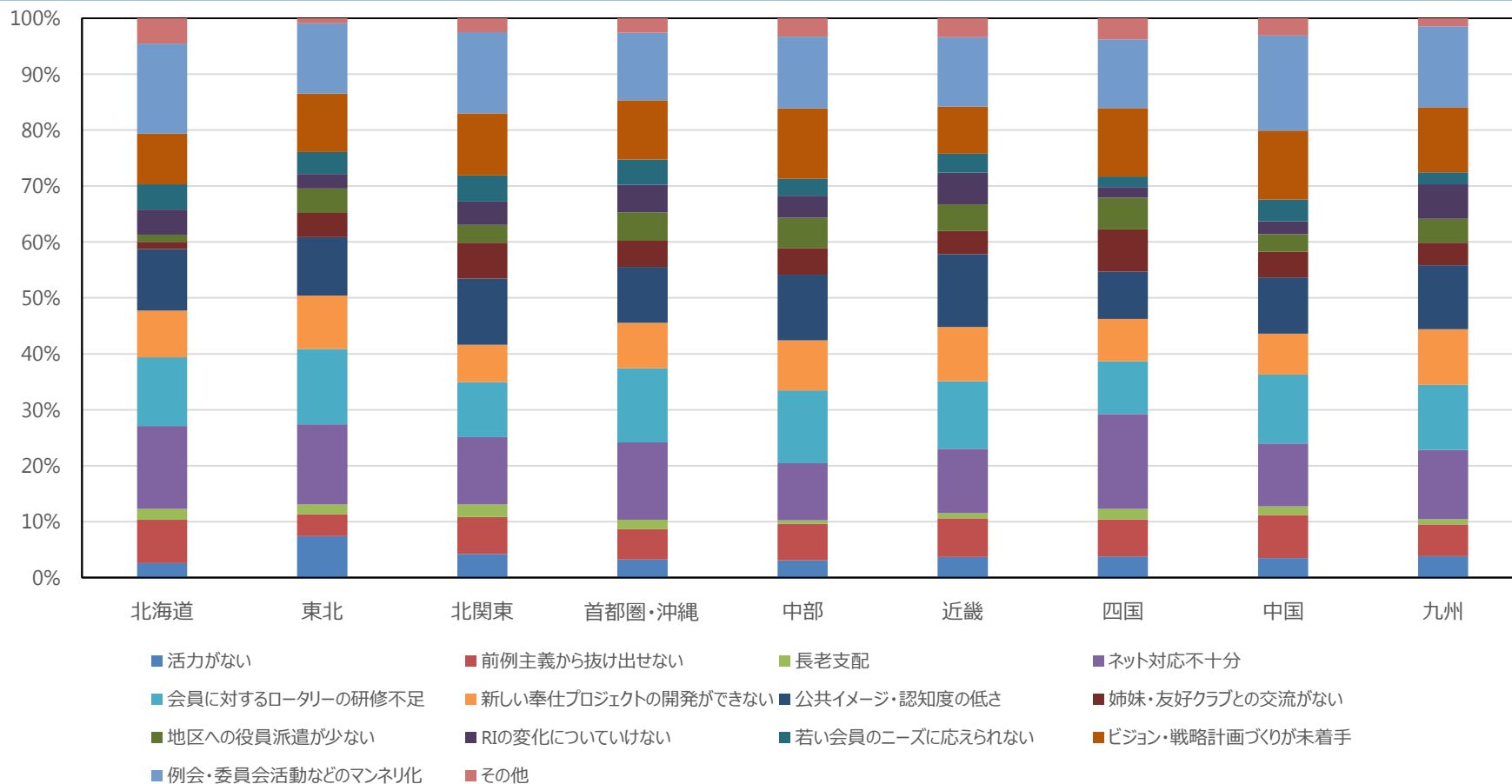
1.あなたのクラブが直面している大きな課題は何ですか？（複数回答可）
・クラブ運営について



会員数に関わらずビジョンづくりやネット対応が不十分だと考えているようです。
また、クラブ例会・委員会活動のマンネリ化に関する課題も平均的に多いです。

回答結果まとめ(地域別)

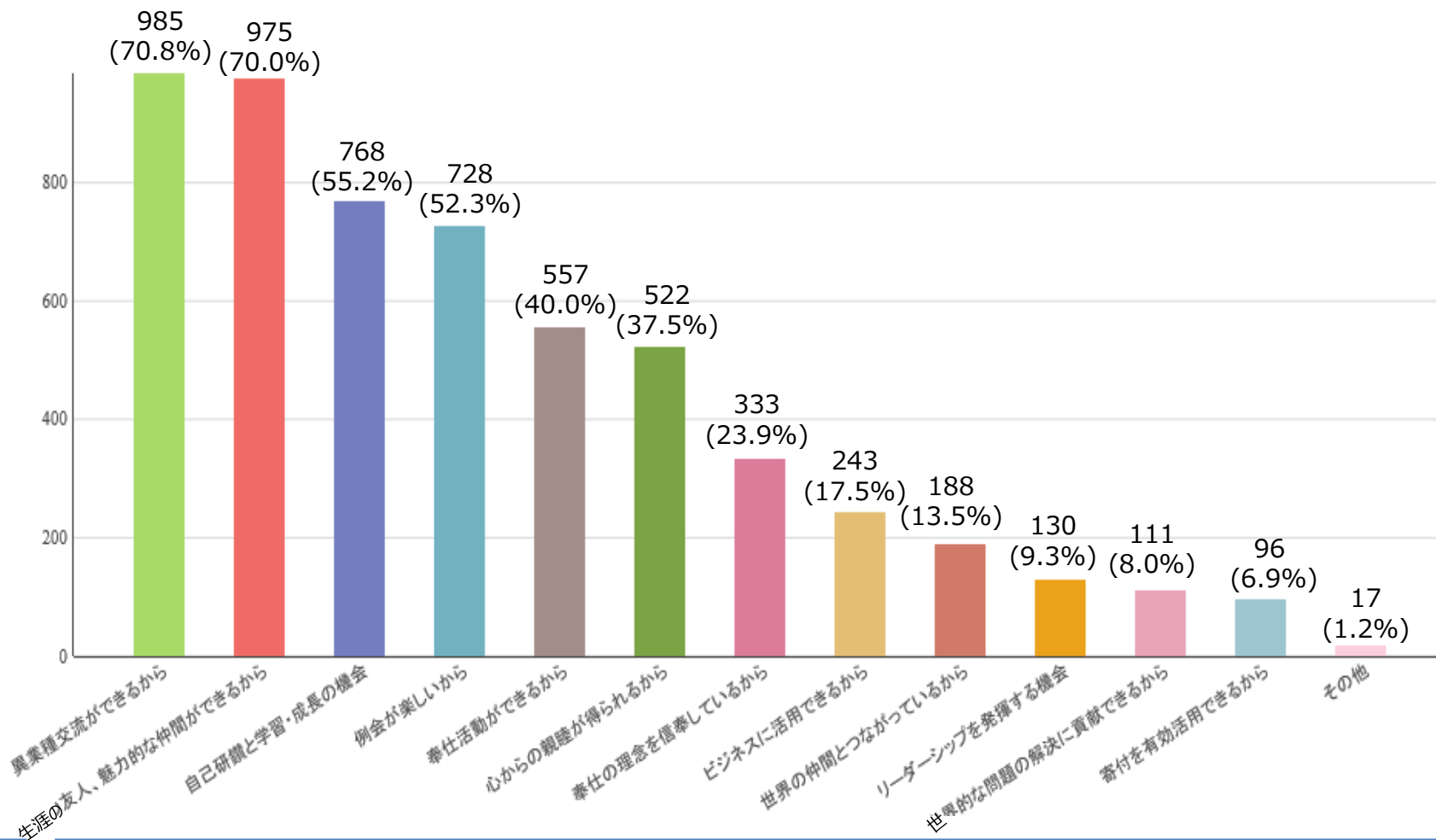
1.あなたのクラブが直面している大きな課題は何ですか？（複数回答可）
・クラブ運営について



大きく地域による差が見られません。認知度や研修不足の地域差もわずかであるようです。
地域によってはネットを使った認知度向上などを仕掛けてもよいかもしれません。

回答結果まとめ(全体数)

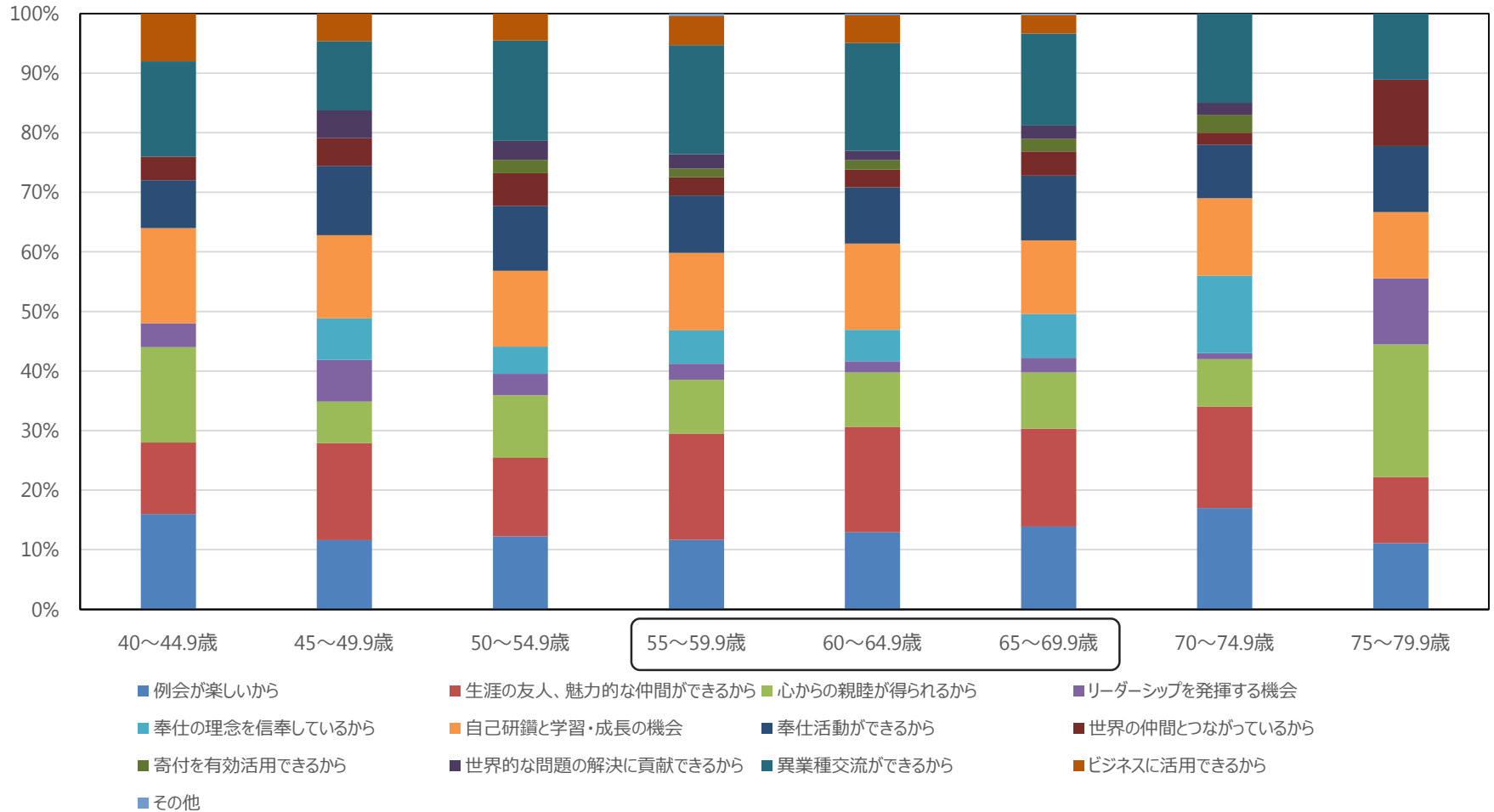
2. 会員がロータリーを続ける理由は何だと思いますか？（複数回答可）



異業種交流、生涯の友ができるといった項目が上位でした。次に自己の成長です。奉仕活動を実践したいという期待より、他人とのかかわりが大切であるという結果となっています。

回答結果まとめ(平均年齢別)

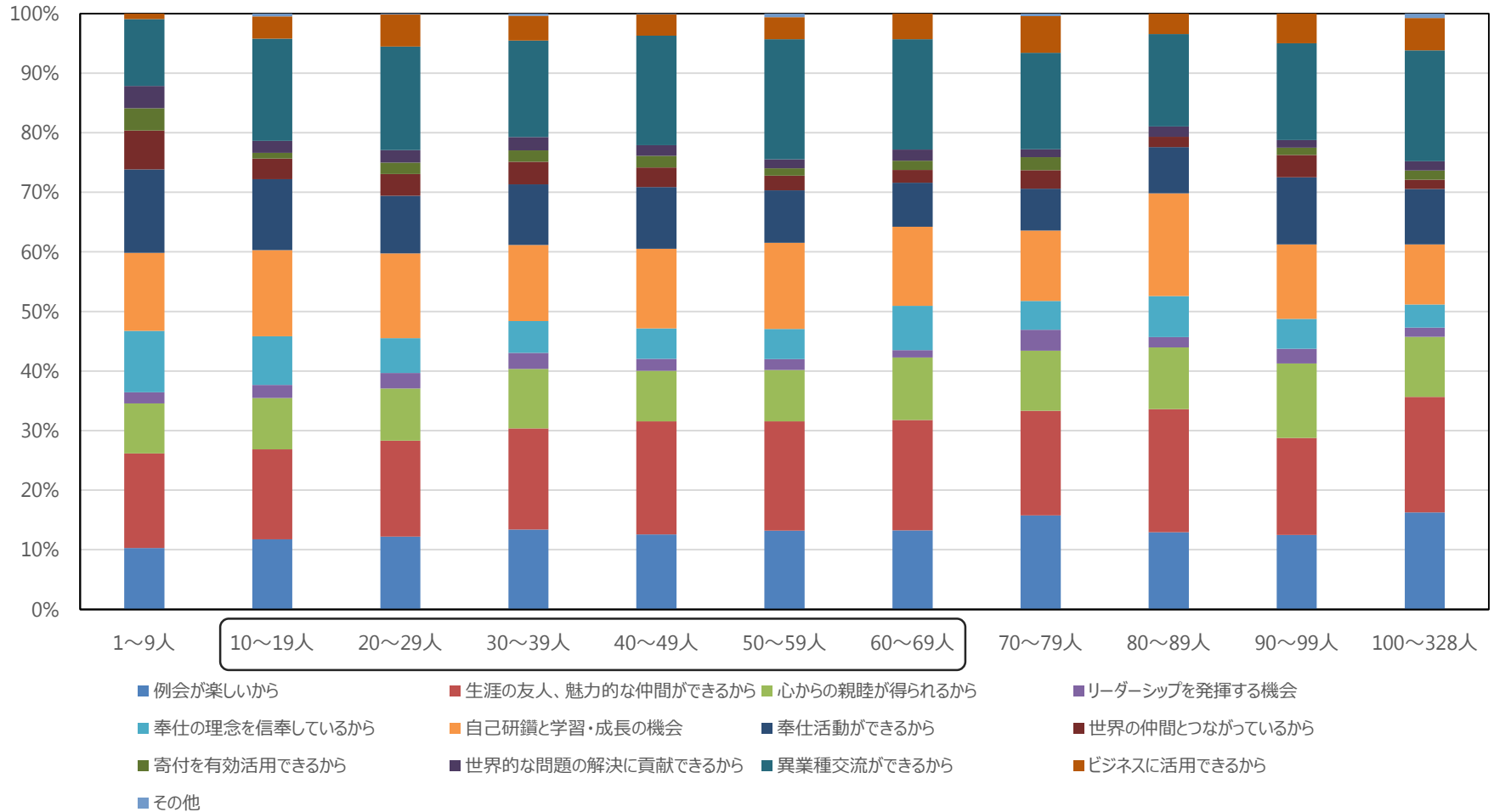
2. 会員がロータリーを続ける理由は何だと思いますか？（複数回答可）



平均年齢に関係なく、ほぼ同様の結果が得られました。

回答結果まとめ(会員数別)

2. 会員がロータリーを続ける理由は何だと思いますか？（複数回答可）



会員数別に見ても大きな特徴は見られず、他人とのかかわりを大切にする結果となりました。

回答結果まとめ(全体数)

3. 2016年規定審議会における、クラブ運営に大幅な柔軟性(例会、出席、会員身分)の導入について、クラブとしてどのように対応しましたか？

導入する予定はない
75
(5.4%)

柔軟性を導入した

41.7%

326
(23.5%)

252
(18.2%)

今後導入する予定にしている

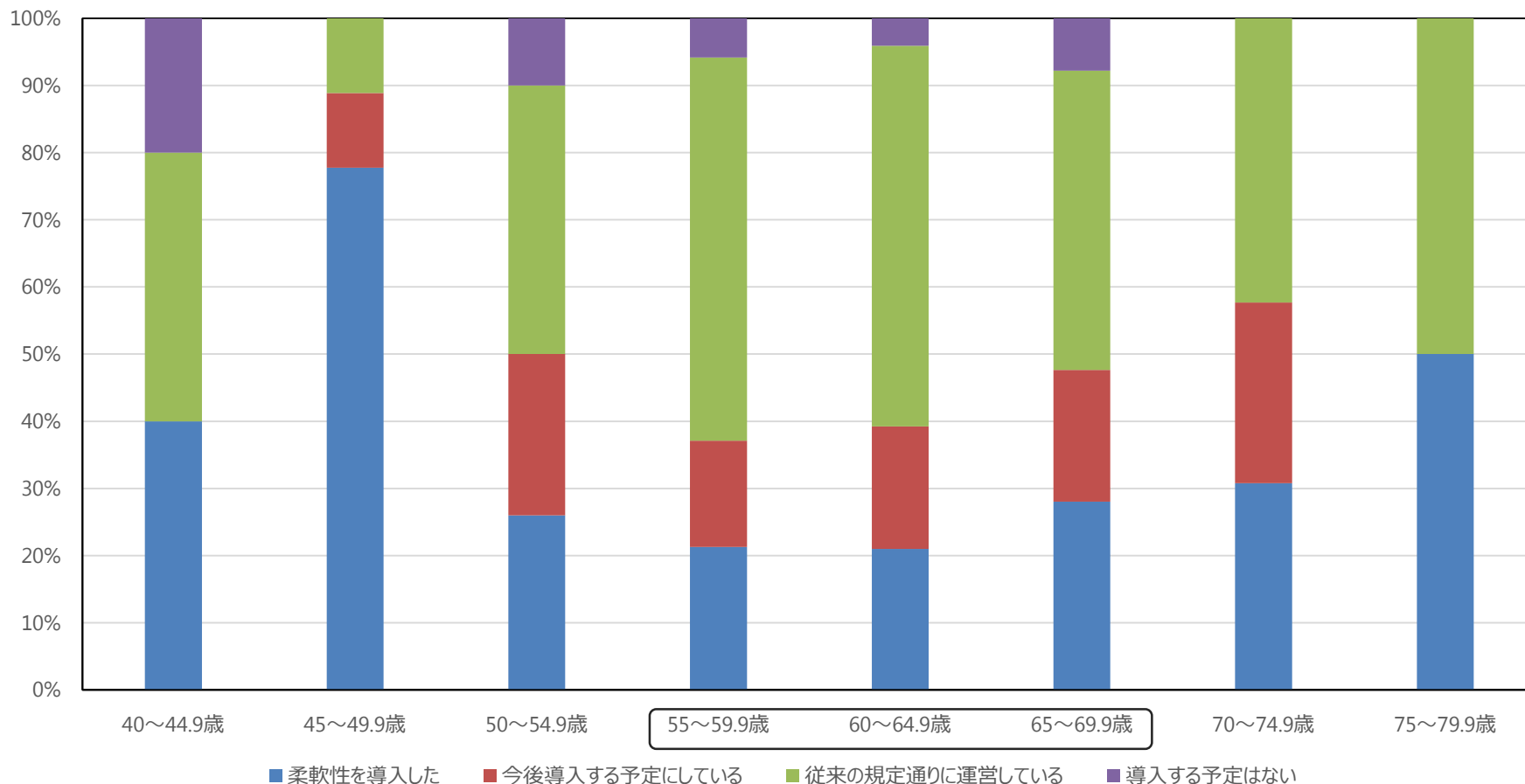
735
(53.0%)

従来の規定通りに運営している

規定審議会の内容を活用するクラブは41%にとどまりました。この設問での「対応」に解釈が異なるかもしれませんが、保守的なクラブ運営を進めるか？様子を見るクラブが多いという結果となりました。アンケートに回答された「マンネリ化」への対応がCOLの柔軟性の導入に結びついているか？検討する必要もあると思います。

回答結果まとめ(平均年齢別)

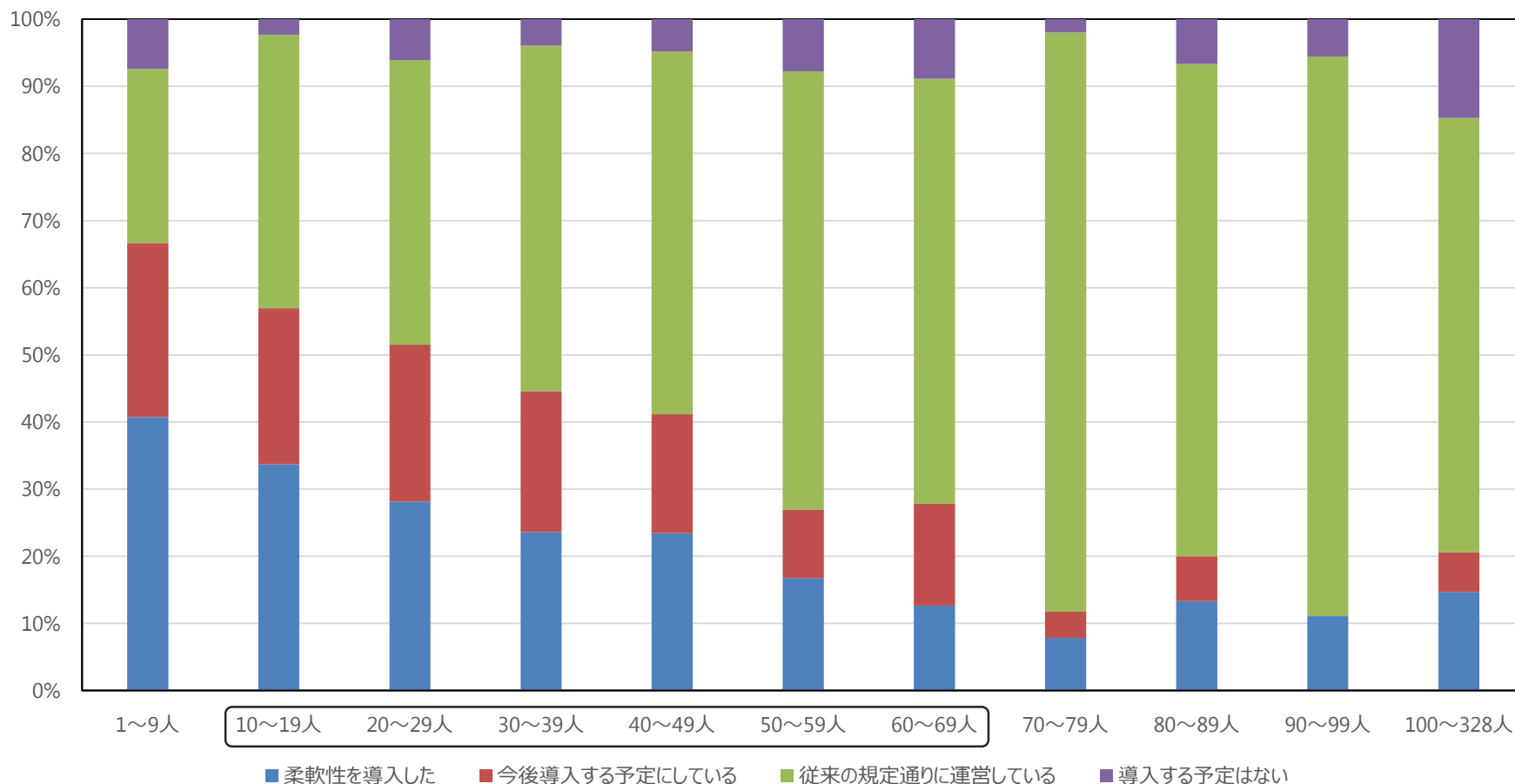
3. 2016年規定審議会における、クラブ運営に大幅な柔軟性(例会、出席、会員身分)の導入について、クラブとしてどのように対応しましたか？



全体の大多数であるクラブが保守的なクラブ運営を進めるか？様子を見るクラブが多いという結果となりました。その中でも高齡化の進んだクラブが柔軟性を活用しようとしています。

回答結果まとめ(会員数別)

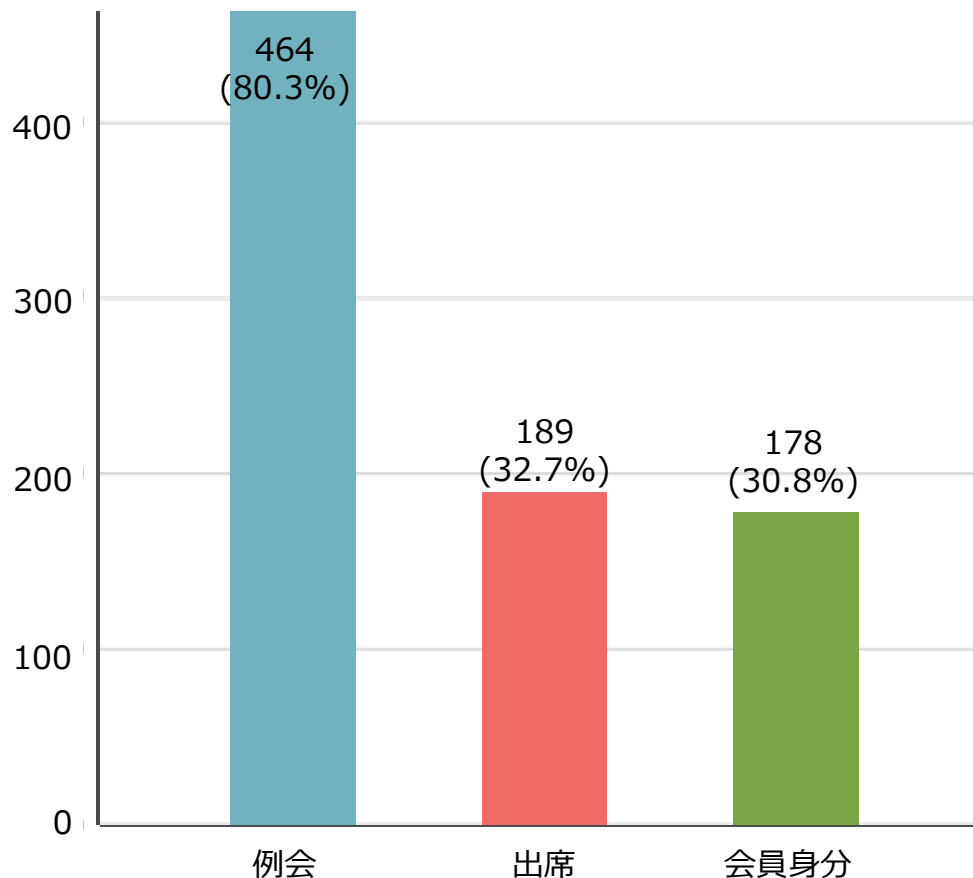
3. 2016年規定審議会における、クラブ運営に大幅な柔軟性(例会、出席、会員身分)の導入について、クラブとしてどのように対応しましたか？



会員数が増えるにつれて導入予定のない回答が増えていました。クラブ運営に余裕があり会員増強が上手く行っている場合は、既存の運営方法を維持する傾向があるのだと思います。

回答結果まとめ(全体数)

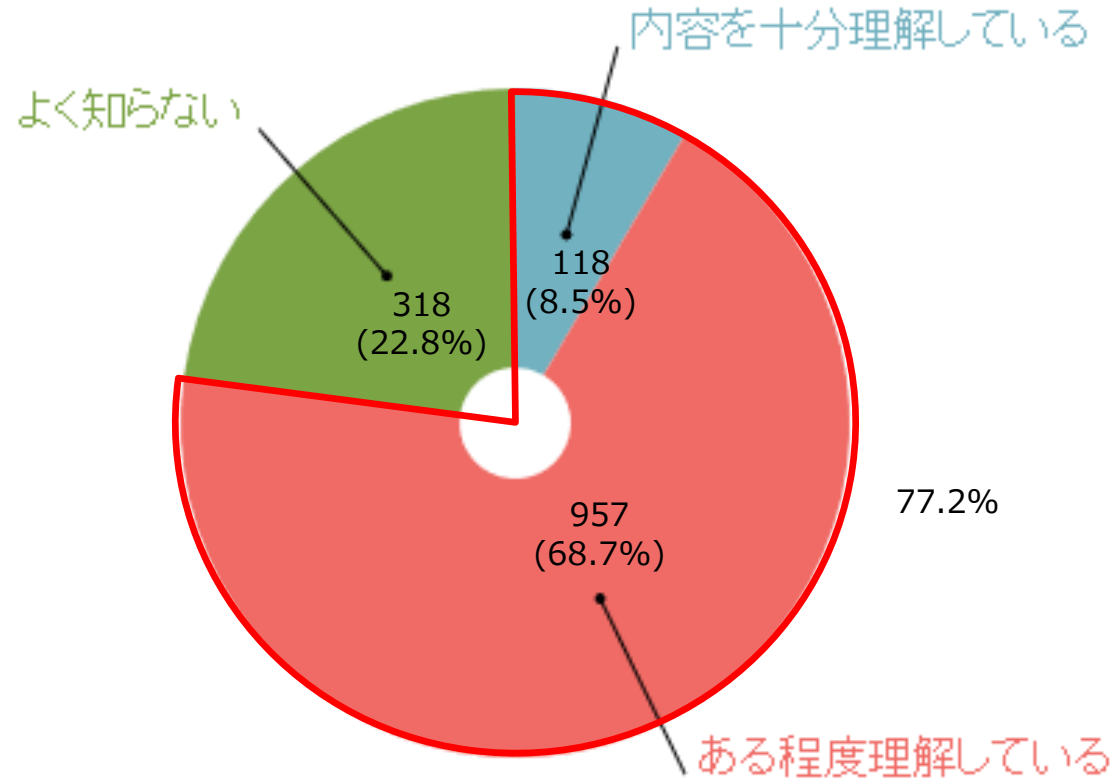
「柔軟性を導入した」、または、「今後導入する予定にしている」と答えた方は導入したまたは、導入予定のものをご回答ください。(複数回答可)



柔軟性の項目で「例会」を工夫しようとするクラブが圧倒的に多い結果となりました。

回答結果まとめ(全体数)

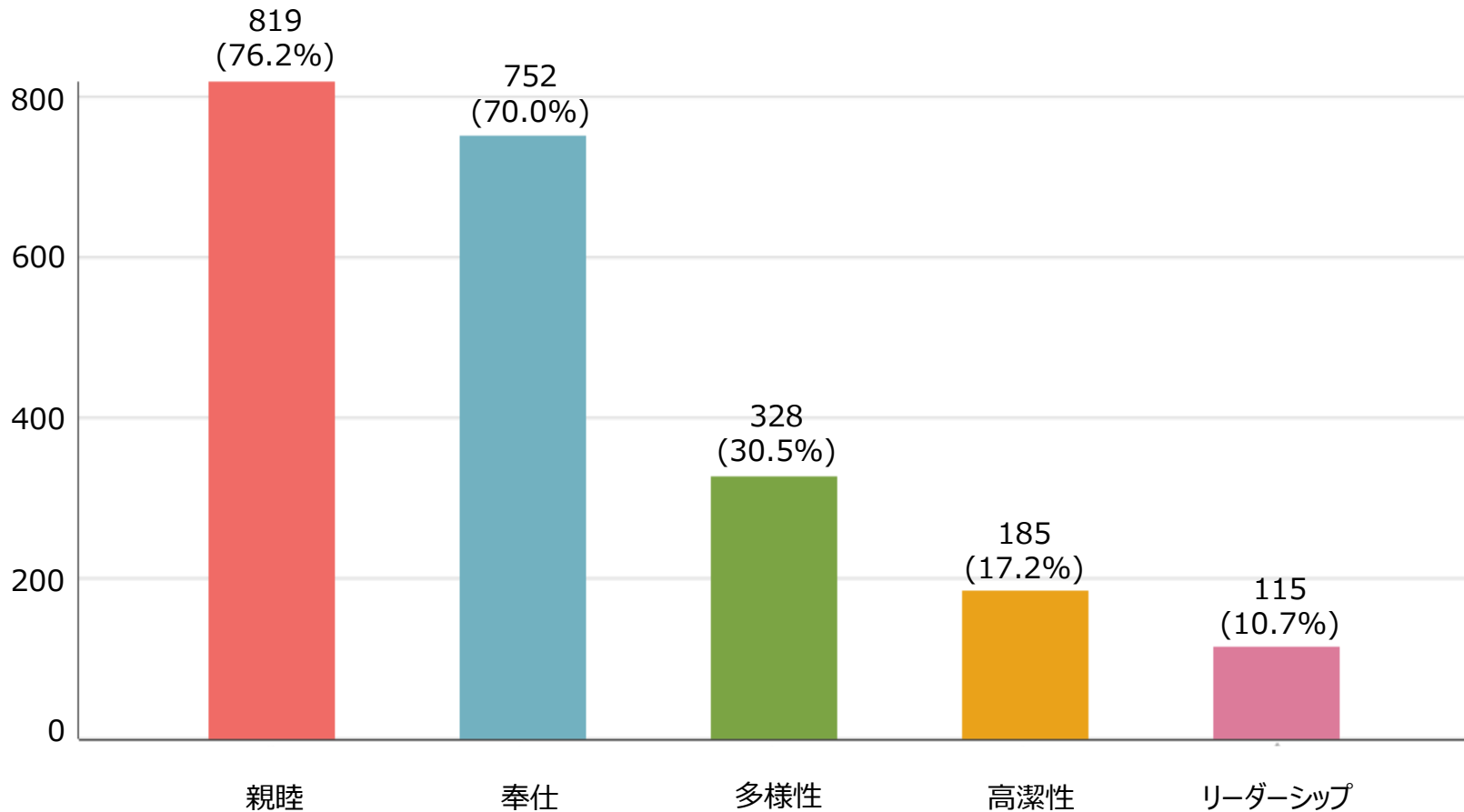
4. ローターの戦略計画についてお聞きます。



約75%のクラブが戦略計画について理解している結果となりました。
しかしながら、よく知らないクラブが20%もあり、ある程度理解しているというクラブの割合も多いためもっと周知させていく必要があるかと思えます。

回答結果まとめ(全体数)

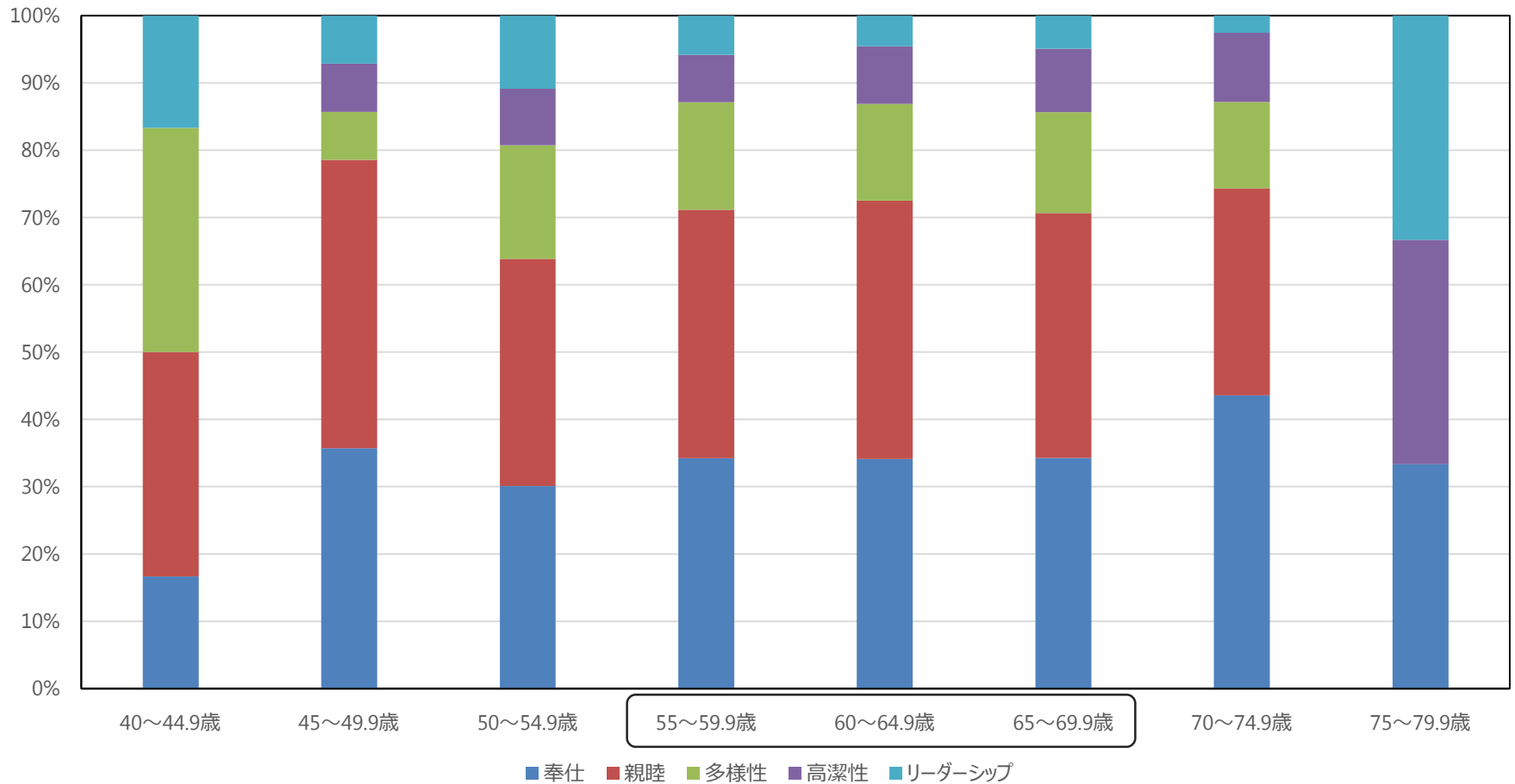
「内容を十分理解している」または「ある程度理解している」と答えた方へ
・戦略計画が示す中核的価値観の中で貴クラブが重要視しているものは何ですか？（複数回答可）



親睦と奉仕が多い結果となりました。日本のロータリアンは、やはり仲間と接すること、「親睦やクラブ奉仕」を重視していると考えられます。

回答結果まとめ(平均年齢別)

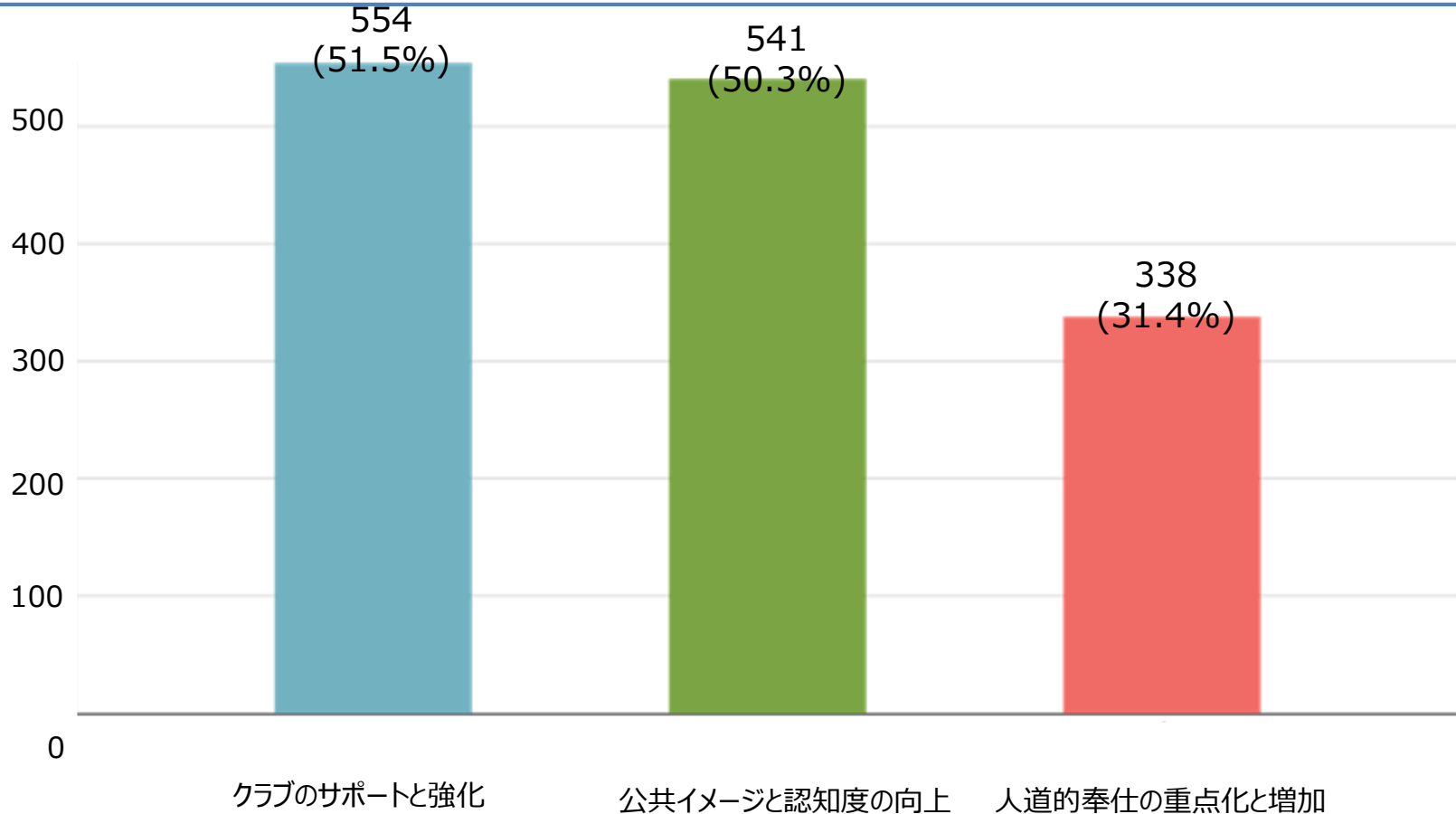
「内容を十分理解している」または「ある程度理解している」と答えた方へ
・戦略計画が示す中核的価値観の中で貴クラブが重要視しているものは何ですか？（複数回答可）



年齢別に見ても大きな変化はありませんでした。

回答結果まとめ(全体数)

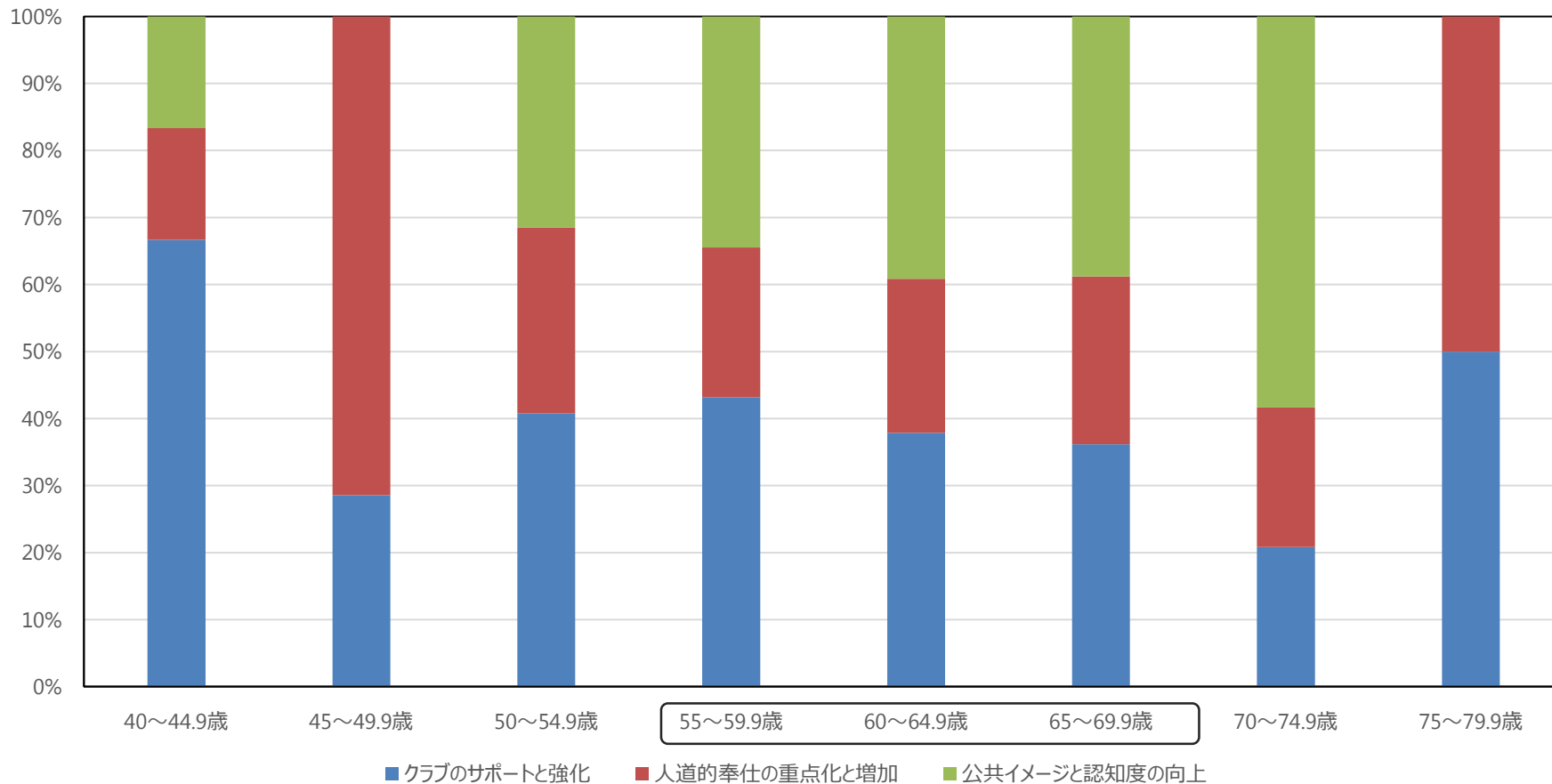
・「内容を十分理解している」または「ある程度理解している」と答えた方へ
戦略計画が示す戦略的目標の中で貴クラブが重要視しているものは何ですか？（複数回答可）



クラブに対するサポートや認知度の向上を重要視しているクラブが多い結果となりました。

回答結果まとめ(平均年齢別)

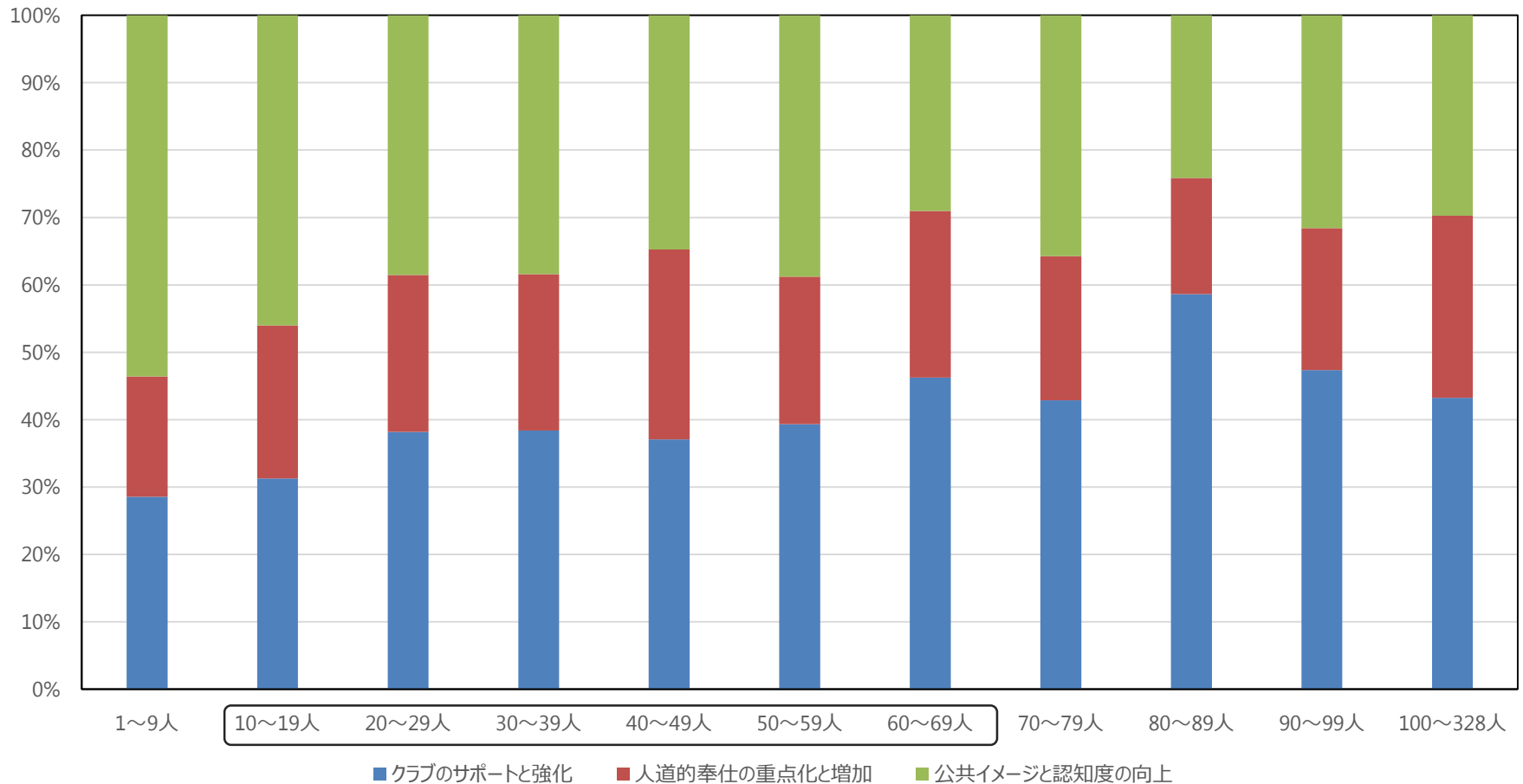
・「内容を十分理解している」または「ある程度理解している」と答えた方へ
戦略計画が示す戦略的目標の中で貴クラブが重要視しているものは何ですか？（複数回答可）



平均年齢が低いとクラブのサポートを重要視しており、
高いほど認知度の向上を重要視している傾向が見られました。

回答結果まとめ(会員数別)

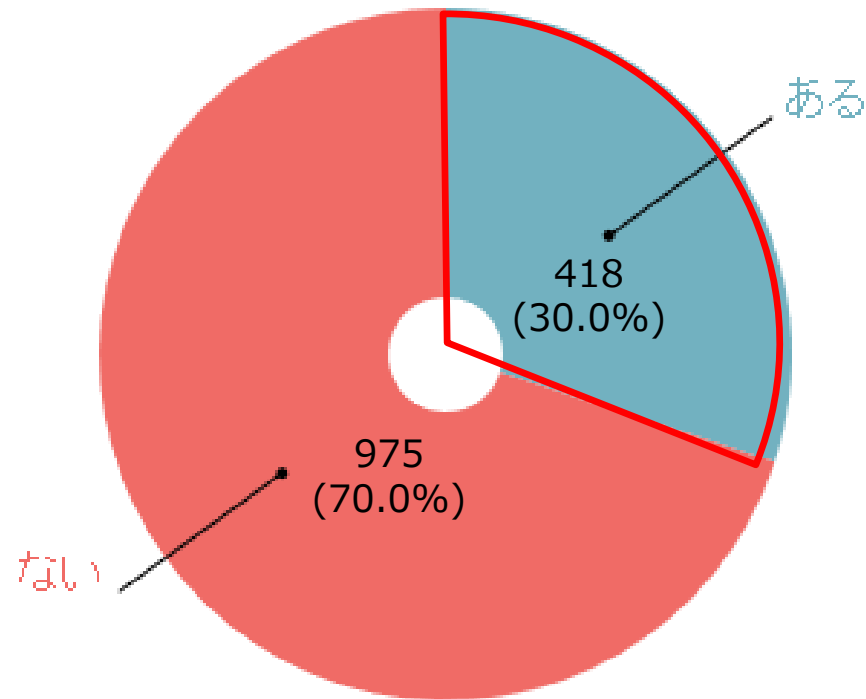
・「内容を十分理解している」または「ある程度理解している」と答えた方へ
戦略計画が示す戦略的目標の中で貴クラブが重要視しているものは何ですか？（複数回答可）



会員数が多いほどサポートを重要視している傾向にありました。
会員数が多いとそれだけ管理が難しくなると考えられます。

回答結果まとめ(全体数)

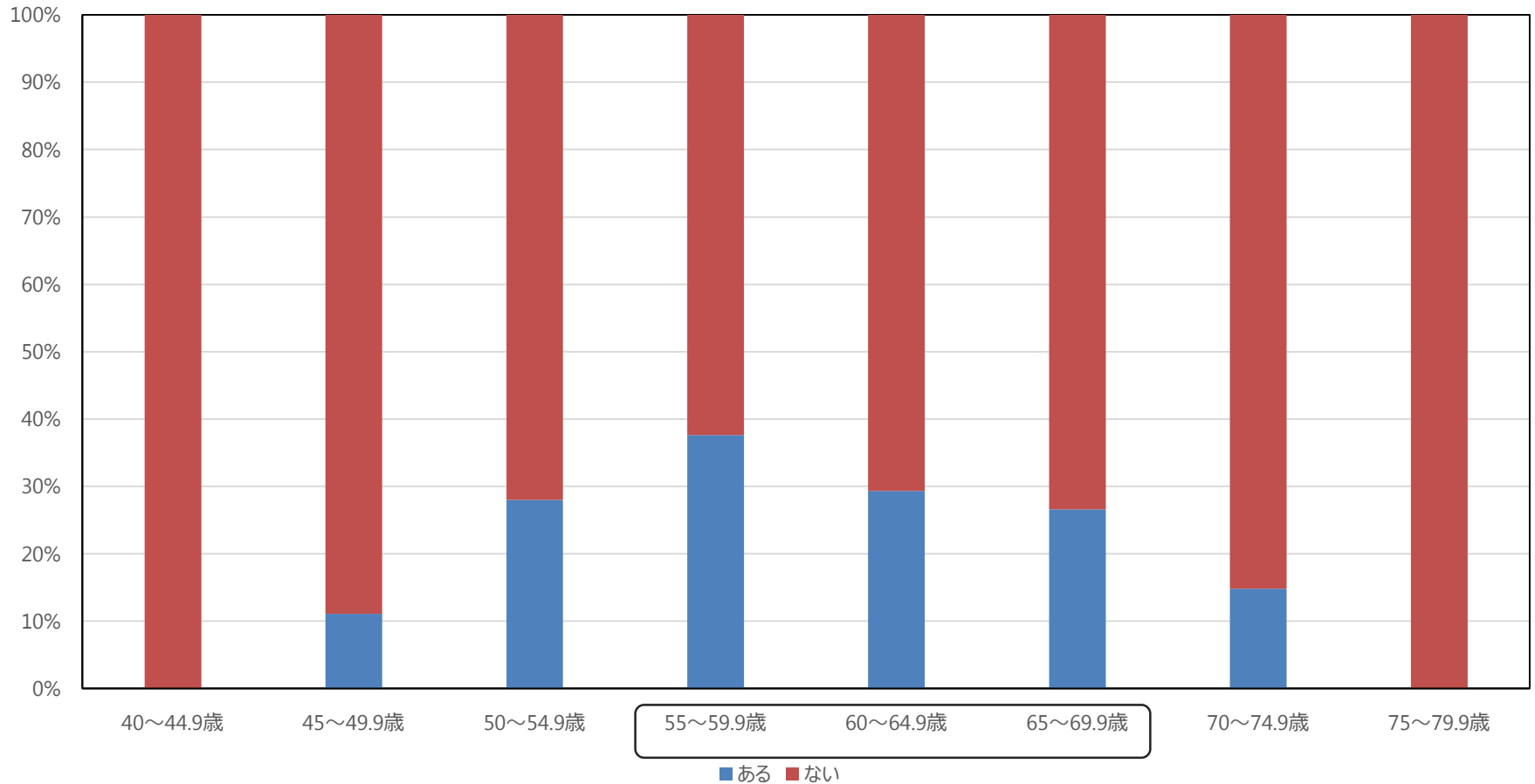
5. 貴クラブのビジョン・戦略計画について
・貴クラブに「戦略計画委員会」または「長期計画委員会」はありますか？



約30%しか委員会を設置してビジョンや戦略計画について議論しているクラブがないという結果となりました。戦略計画の設定は40%です。約10%が委員会はないが戦略を立てているということになります。

回答結果まとめ(平均年齢別)

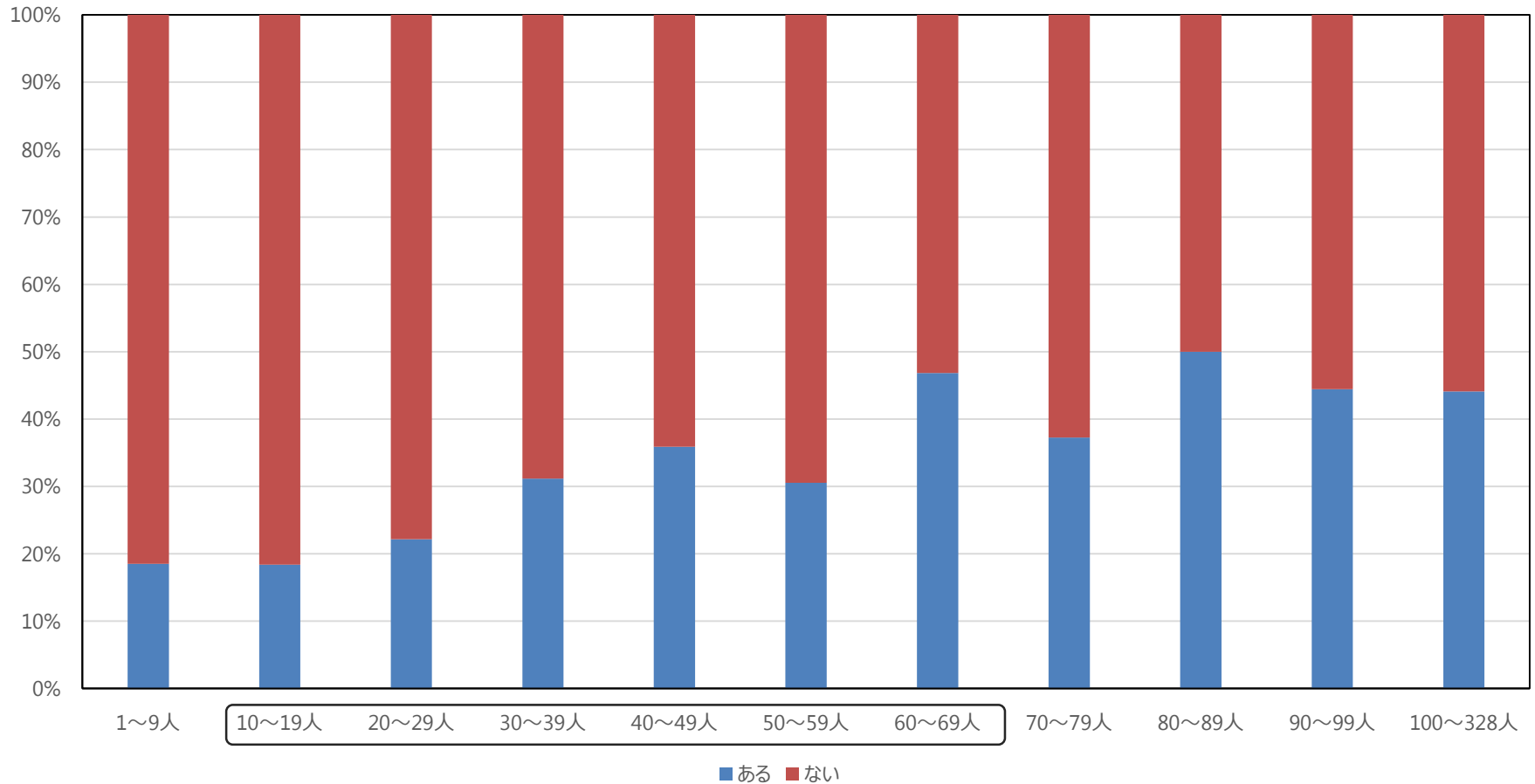
5. 貴クラブのビジョン・戦略計画について
・貴クラブに「戦略計画委員会」または「長期計画委員会」はありますか？



クラブ数が多い55~64.9歳までが委員会を設置しているクラブが多いといった結果となりました。

回答結果まとめ(会員数別)

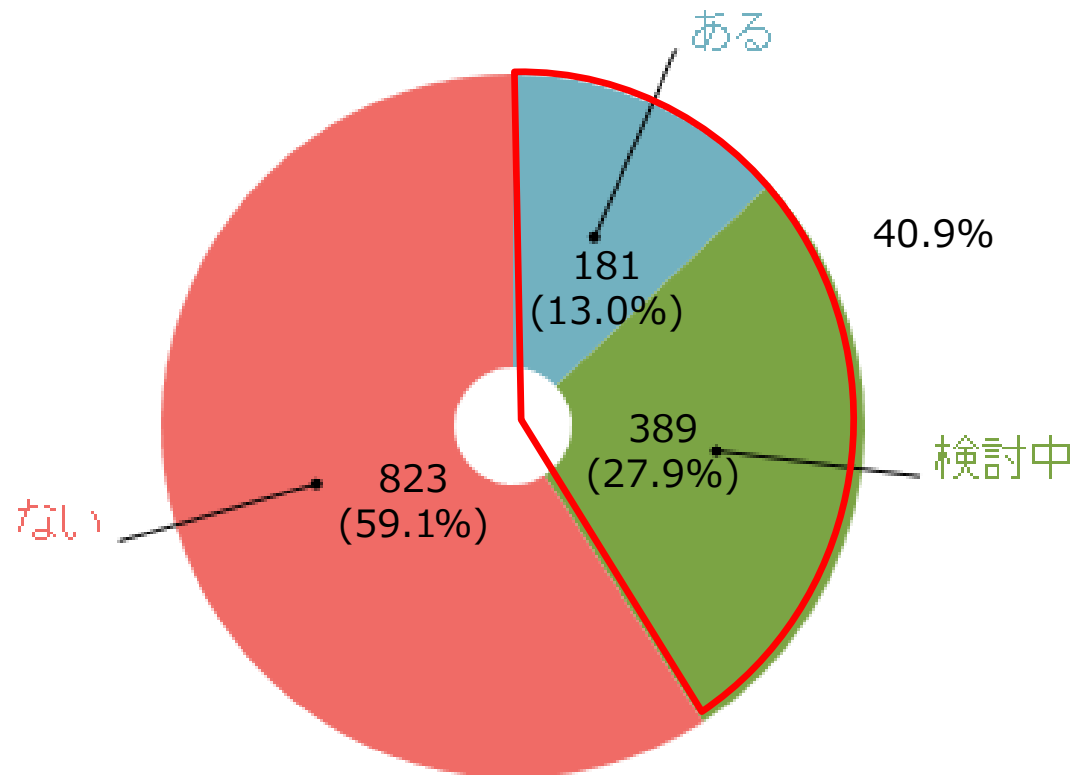
5. 貴クラブのビジョン・戦略計画について
・貴クラブに「戦略計画委員会」または「長期計画委員会」はありますか？



会員数が多いほど委員会を設置している傾向にありました。

回答結果まとめ(全体数)

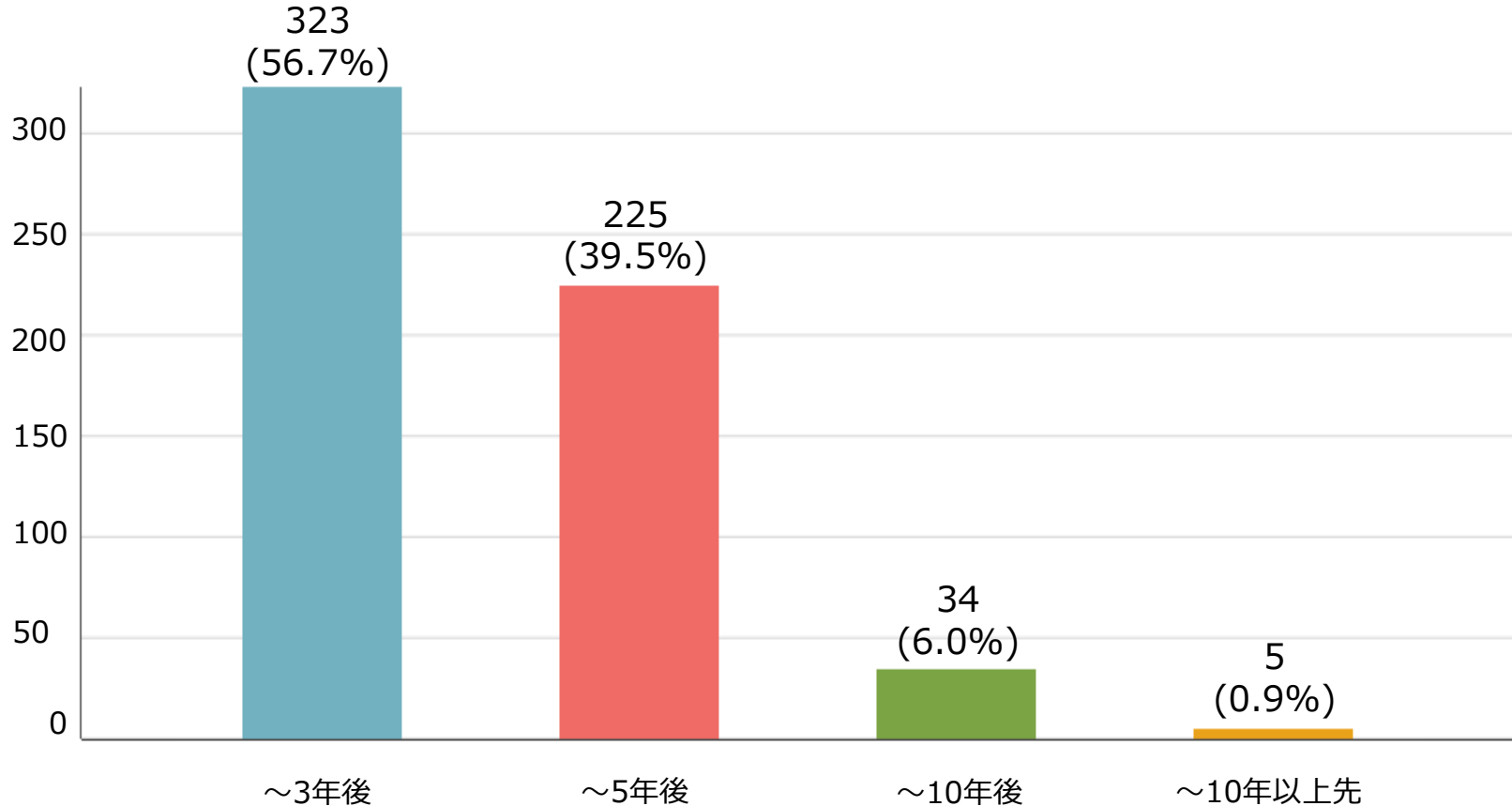
・明文化されたビジョン・戦略計画はありますか？



約40%のクラブがビジョン・戦略計画があるもしくは検討中といった結果となりました。
しかし60%のクラブが戦略計画を作成していないこともわかりました。

回答結果まとめ(全体数)

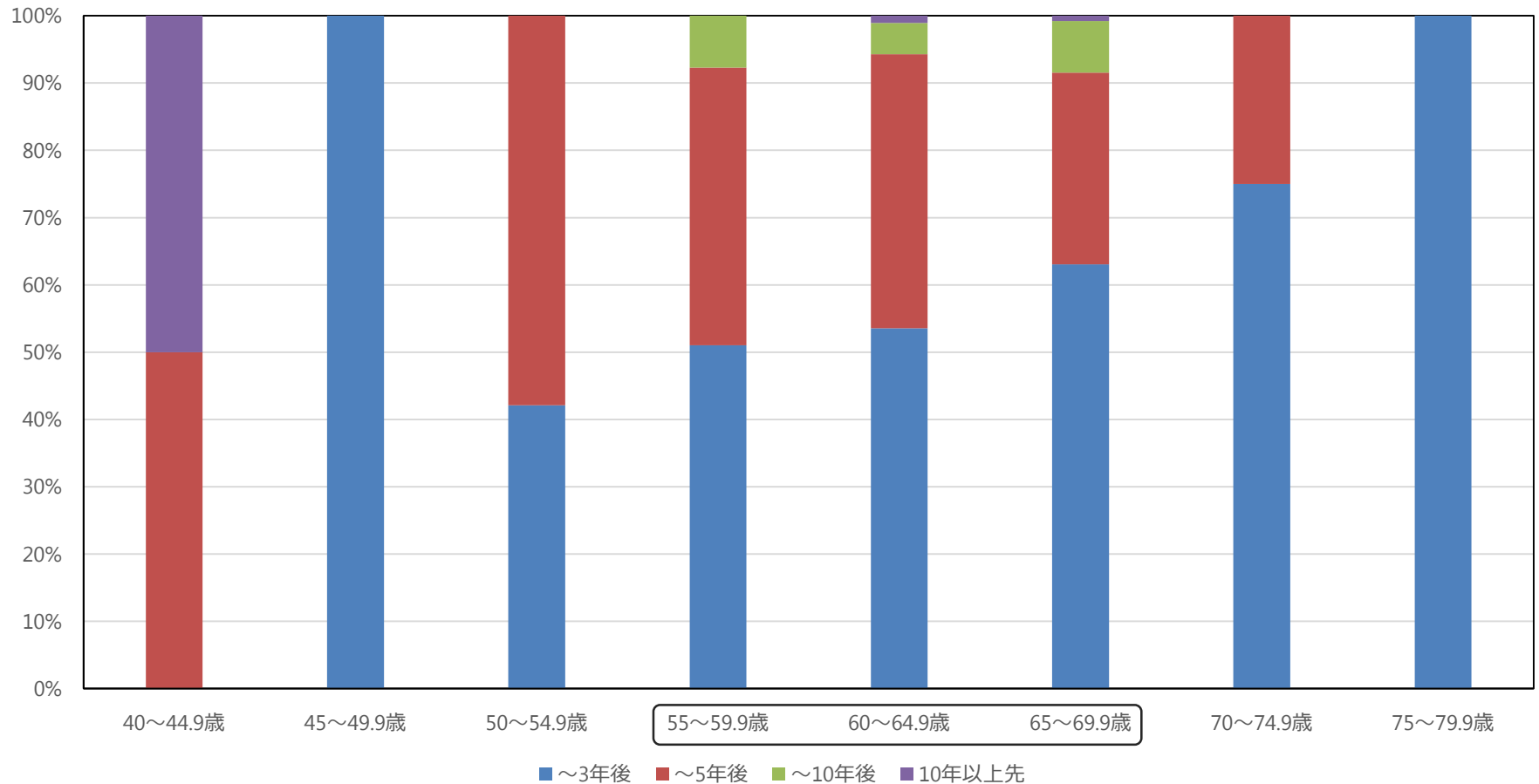
ビジョン・戦略計画がある、または検討中と答えた方へ
それは何年後ぐらいを視野に入れた計画でしょうか？



3年後までを視野に入れた計画が多く、短期的に結果を出す
計画があるクラブが多い結果となりました。

回答結果まとめ(平均年齢別)

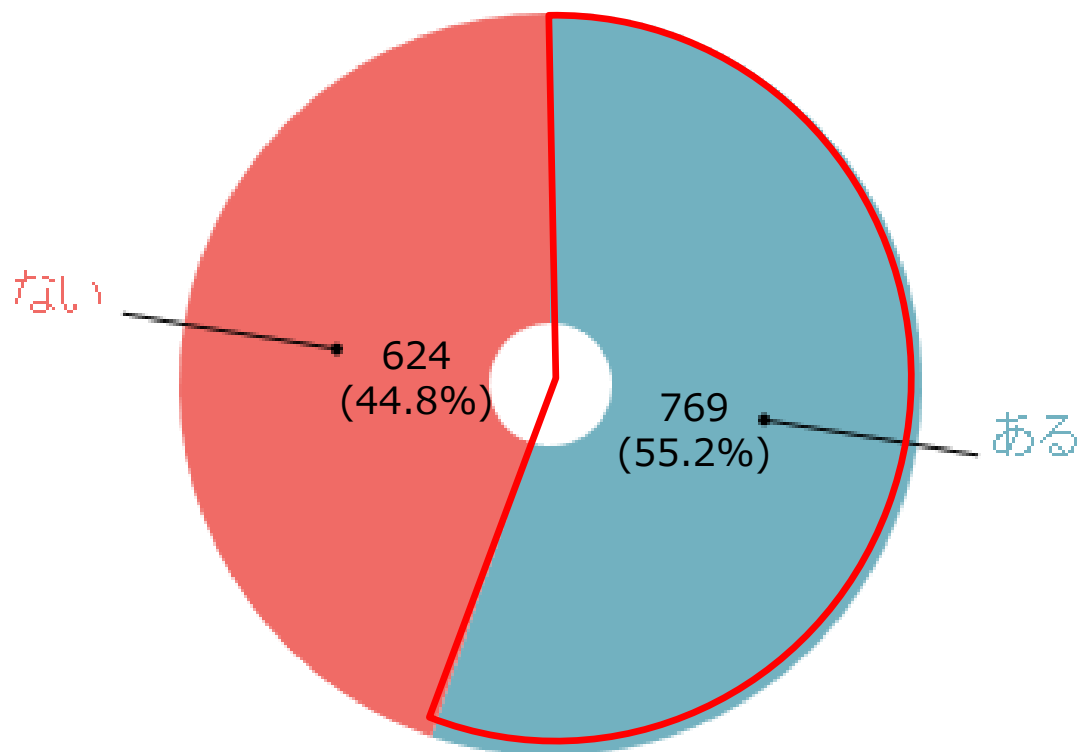
ビジョン・戦略計画がある、または検討中と答えた方へ
それは何年後ぐらいを視野に入れた計画でしょうか？



平均年齢が上がるほどに短期的な計画を保持している結果となりました。

回答結果まとめ(全体数)

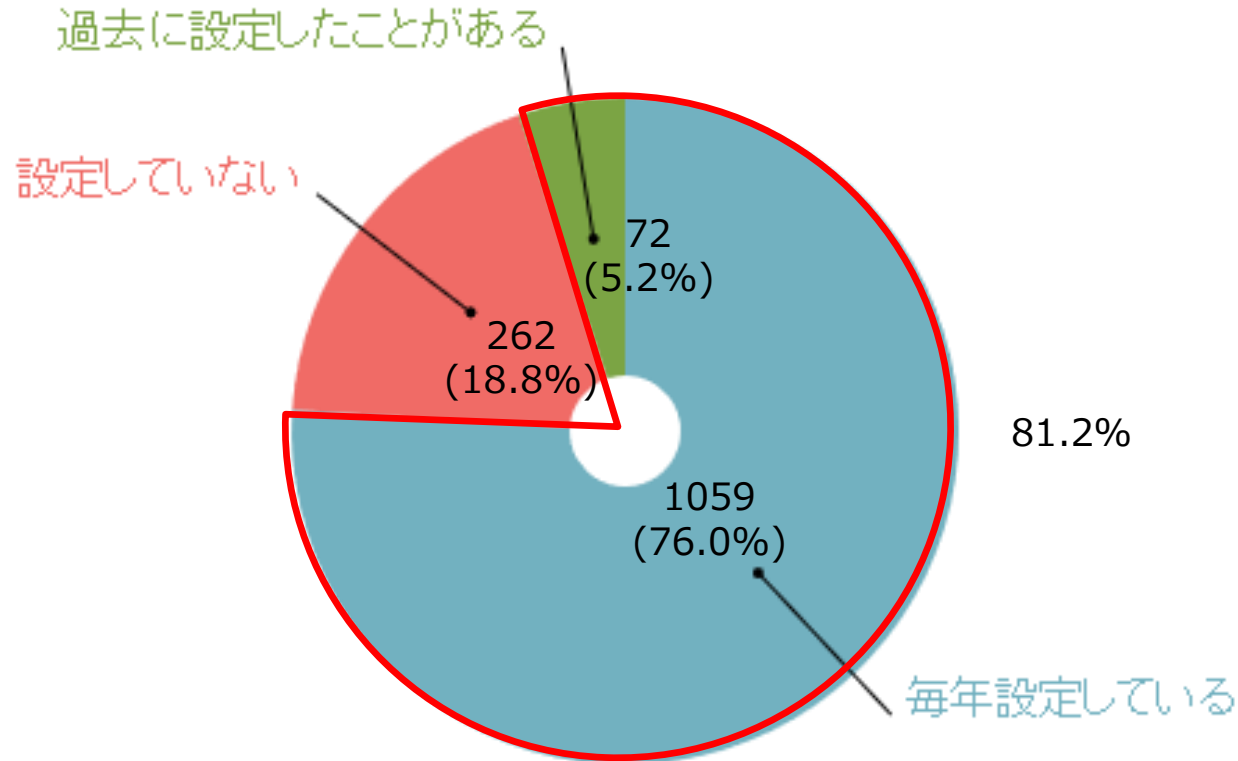
・理想のクラブ像や会員像をみんなで話し合ったことはありますか？



半数以上のクラブが理想のクラブ像などを話し合ったことがあるという結果となりました。「ない」と回答したクラブが少なくなるように対話をしていくことを推奨していく必要があります。

回答結果まとめ(全体数)

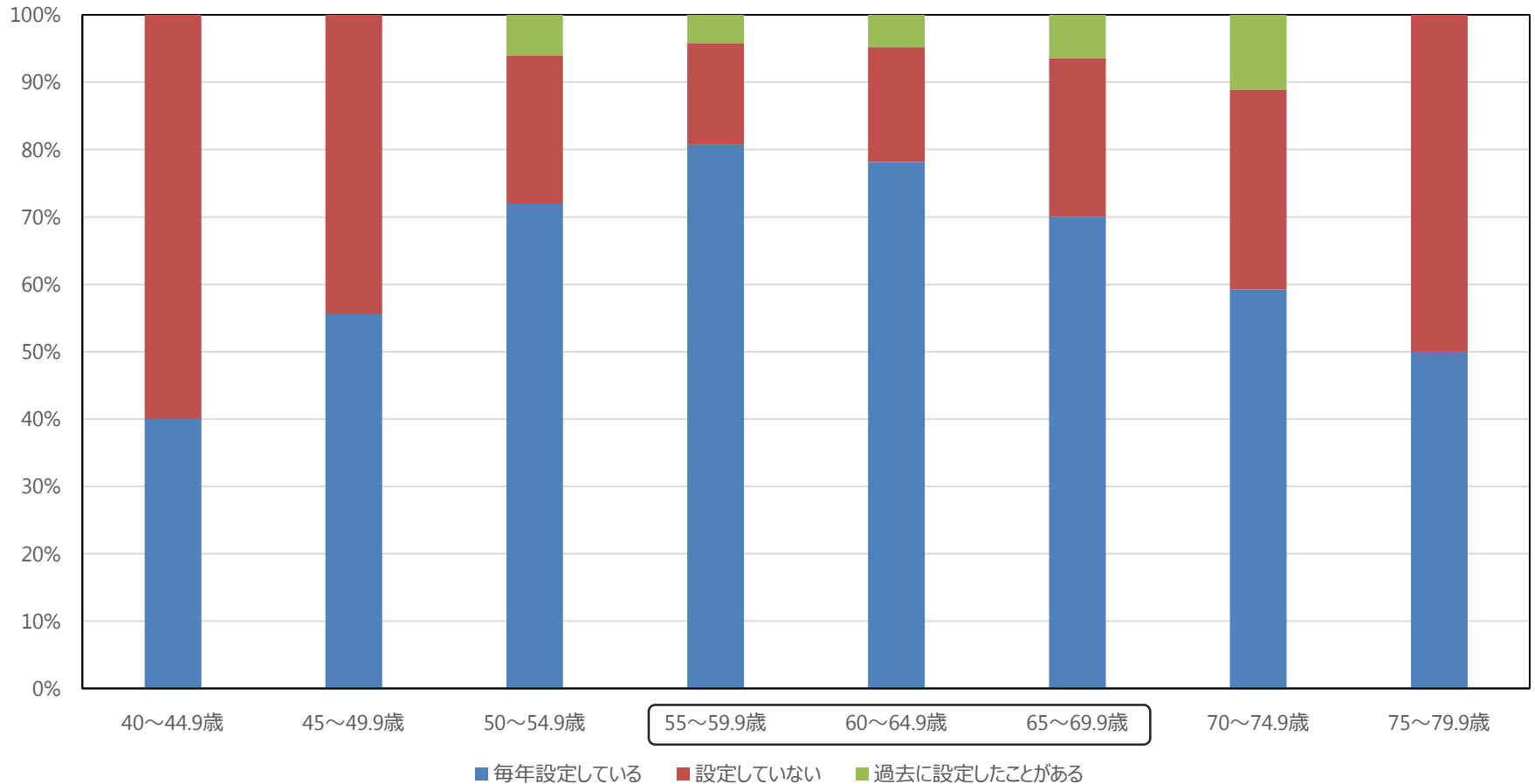
・クラブの会員数や寄付額の数値目標は設定していますか？
<会員数>



約81%が会員数の目標を設定しており、積極的に会員を集めようとしている傾向が見られます。

回答結果まとめ(平均年齢別)

・クラブの会員数や寄付額の数値目標は設定していますか？
<会員数>

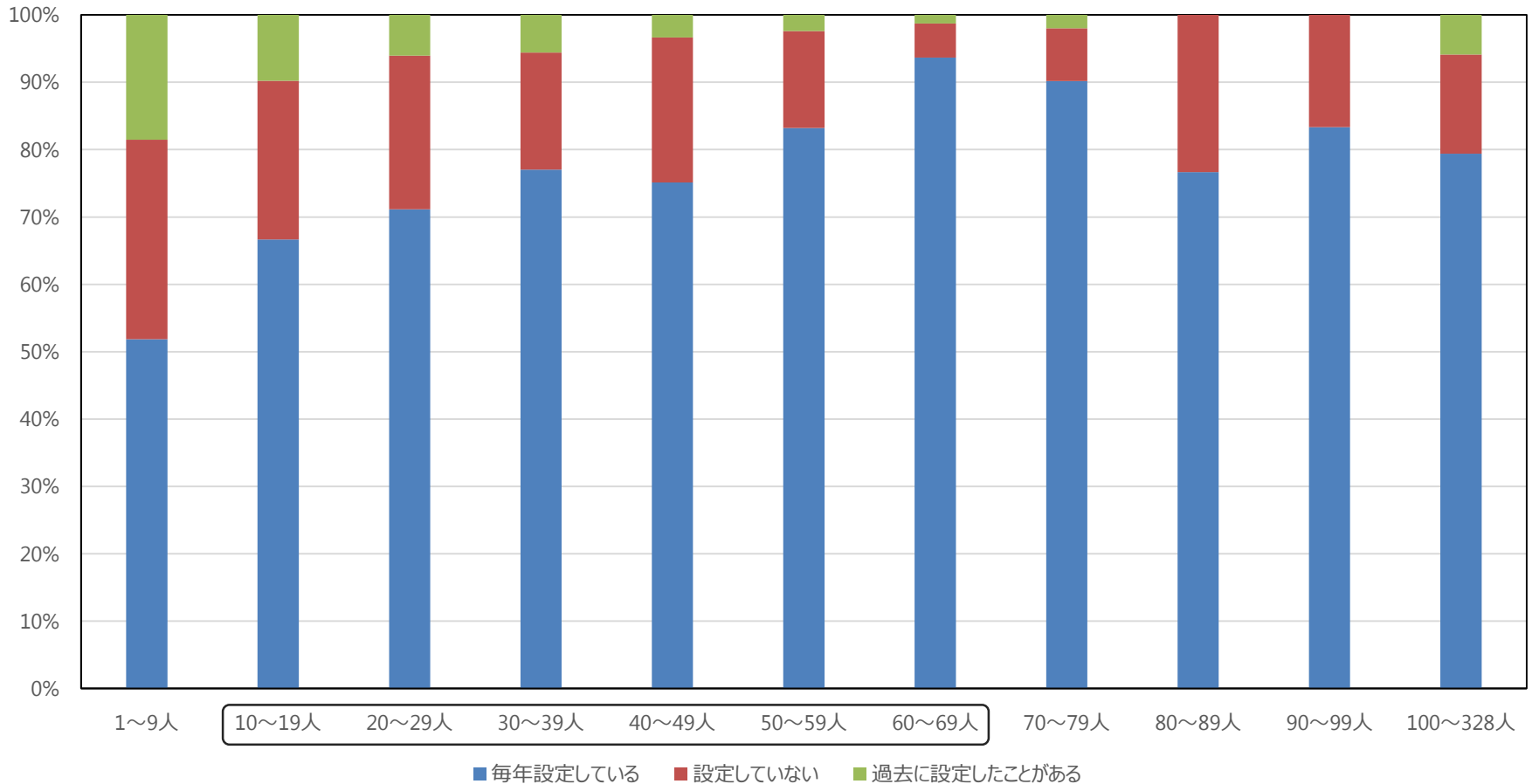


ほとんどのクラブで会員数の明確な目標数を設定している傾向が強いです。
しかし、若い人のクラブ、高年齢化が進みすぎたクラブはクラブ運営が円滑ではない可能性もあります。

回答結果まとめ(会員数別)

・クラブの会員数や寄付額の数値目標は設定していますか？

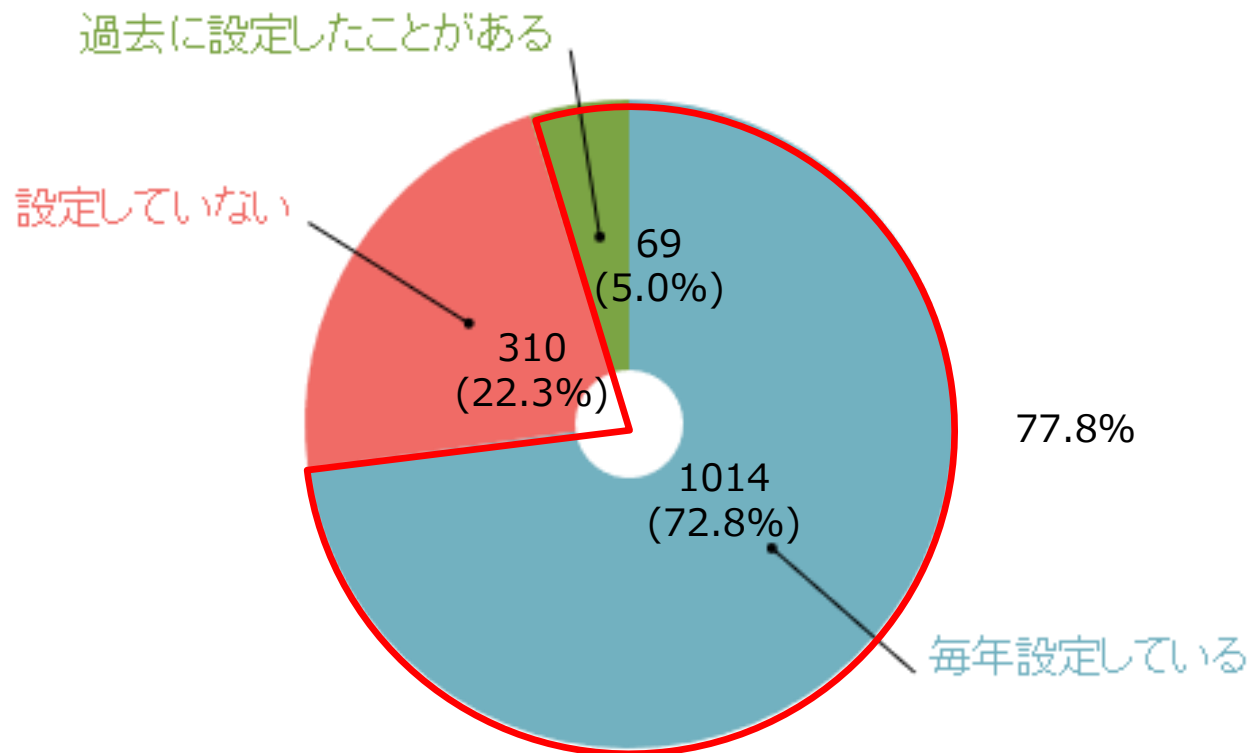
<会員数>



会員数が多いほど毎年設定している傾向があります。大きなクラブほどクラブ運営が円滑に行われ、様々な意欲の高いクラブだということが分かります。

回答結果まとめ(全体数)

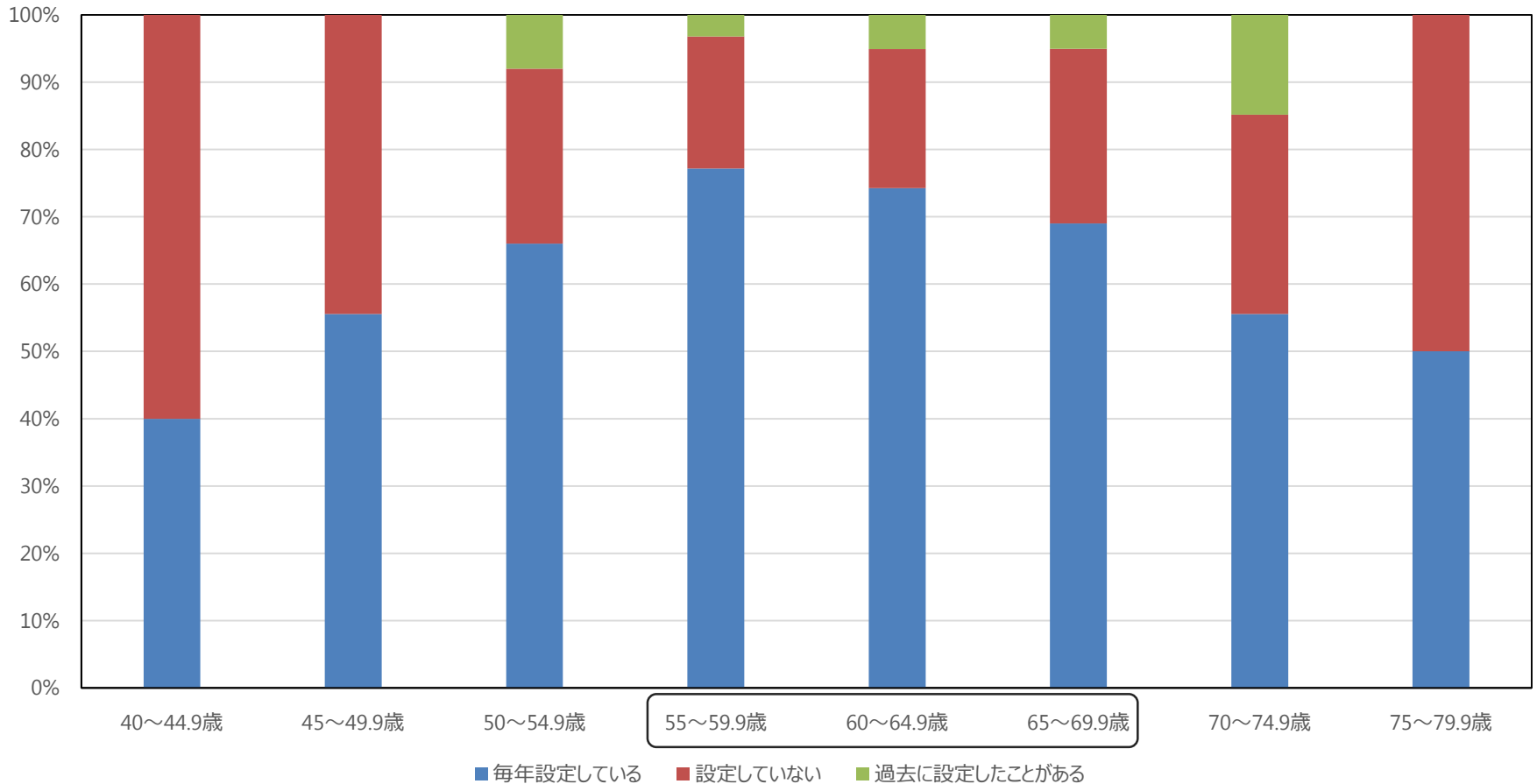
・クラブの会員数や寄付額の数値目標は設定していますか？
<寄付額>



寄付額についても約77%のクラブが目標数字を設定しているといった結果となりました。
しかし23%のクラブが数字を設定せずに年度運営をしている事実も判明しました。

回答結果まとめ(平均年齢別)

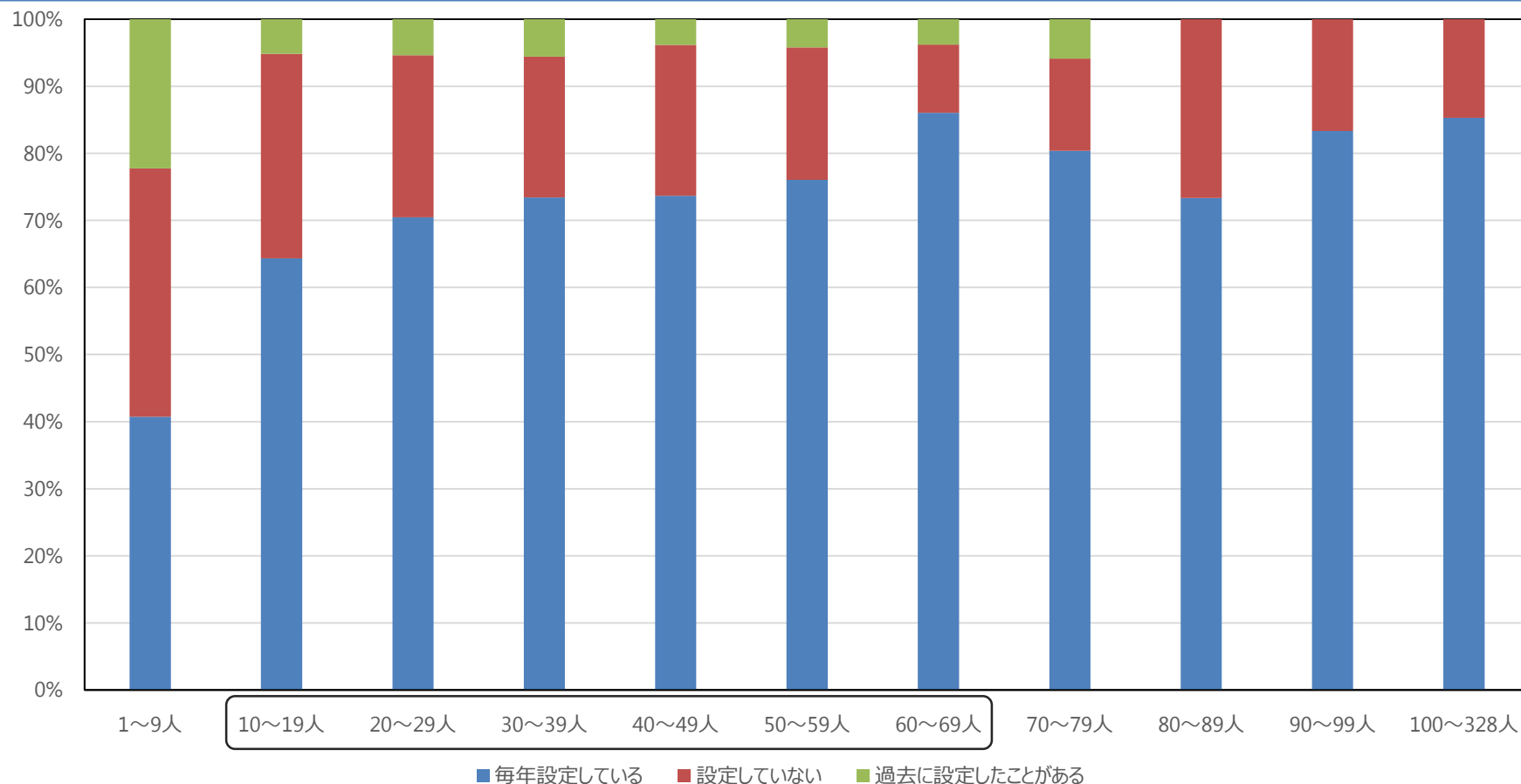
・クラブの会員数や寄付額の数値目標は設定していますか？
<寄付額>



会員数を設定しているグラフとほぼ同様のグラフとなりました。
これは、会員数を設定しているクラブは寄付額についてもしっかりと設定しているといった傾向にあることを示しています。

回答結果まとめ(会員数別)

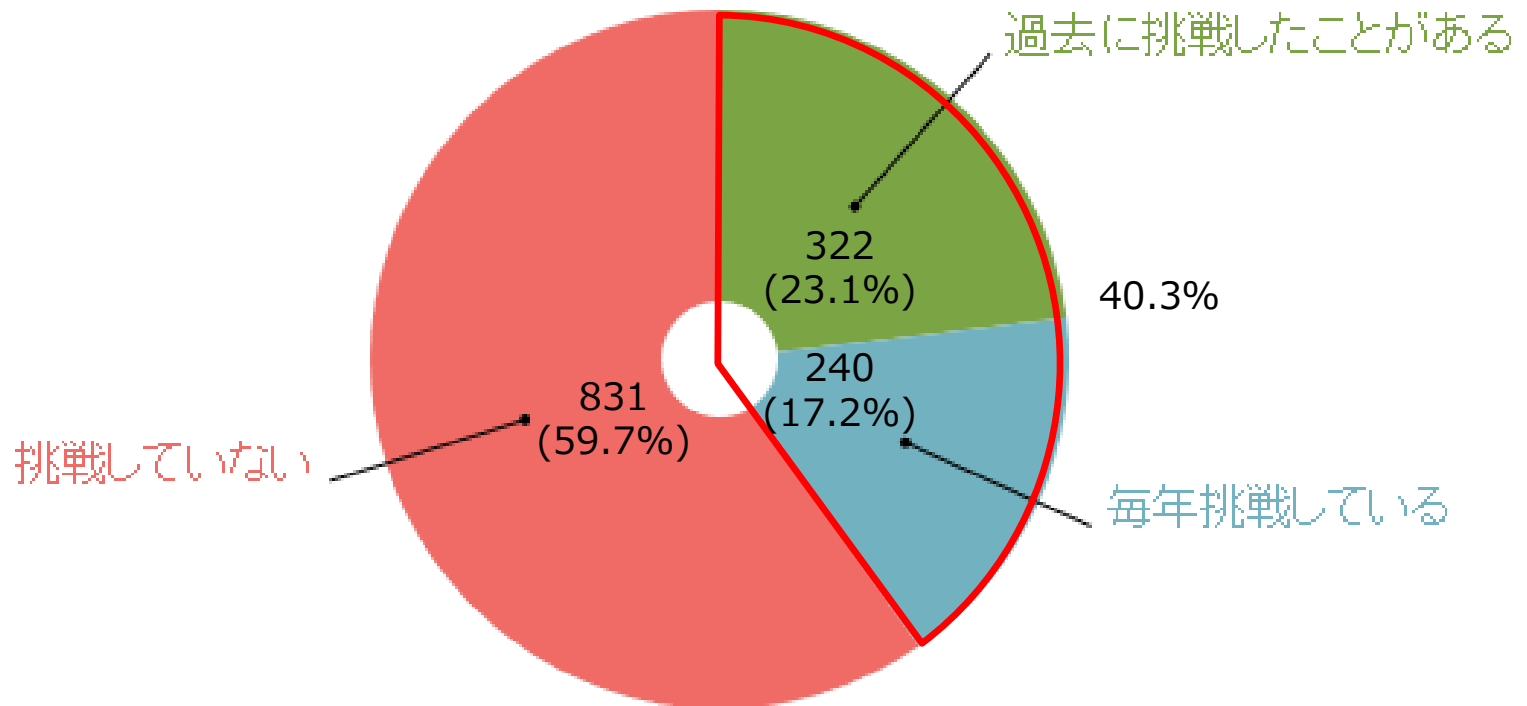
・クラブの会員数や寄付額の数値目標は設定していますか？
＜寄付額＞



全体的に会員数を設定しているクラブよりも毎年設定しているが減少している傾向にありました。

回答結果まとめ(全体数)

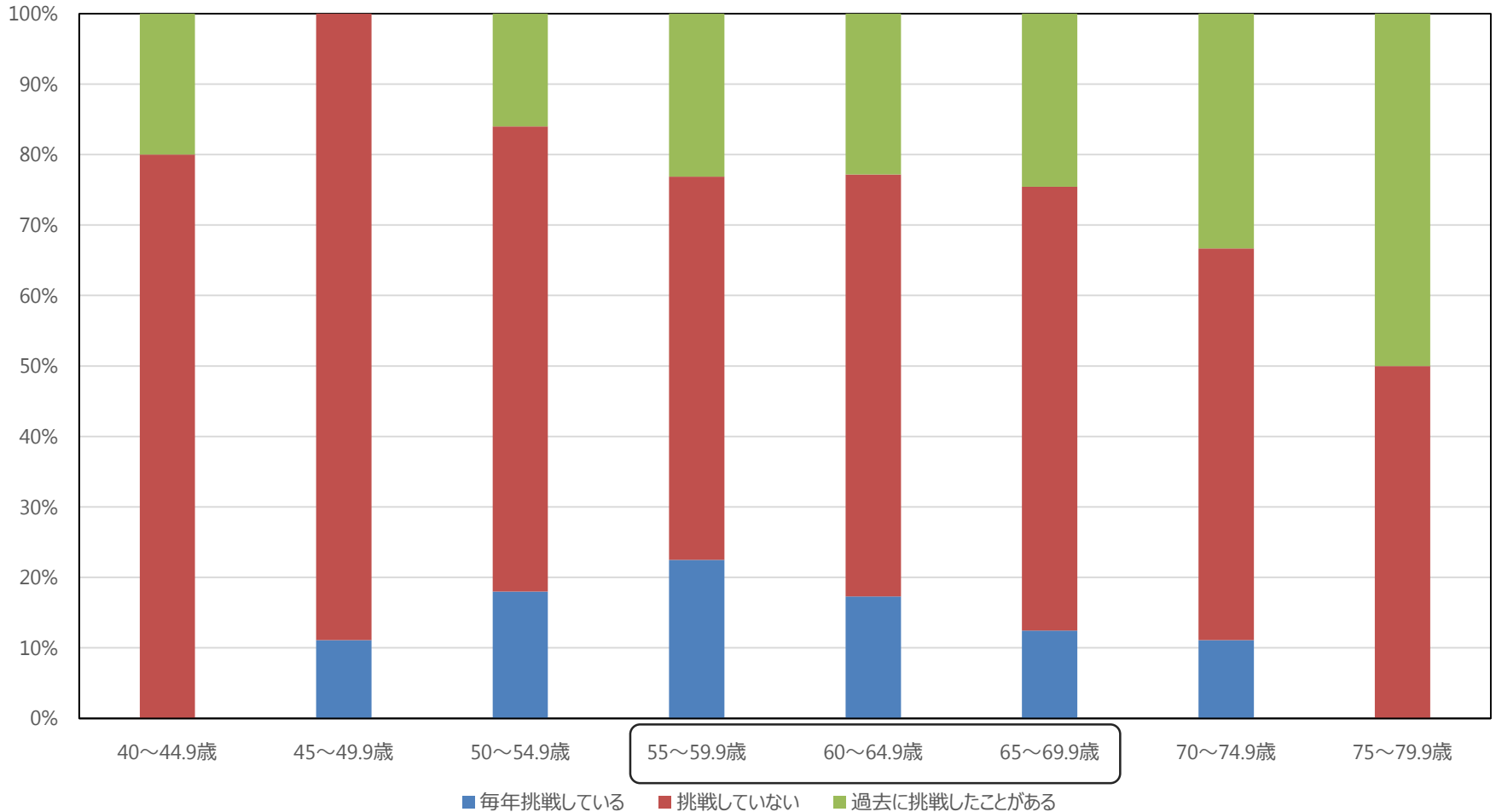
・RI会長賞に毎年度、挑戦していますか？



約40%が会長賞に毎年挑戦しているもしくは過去に挑戦したことがあるという結果となりました。
割合的に毎年挑戦しているクラブが少ないので挑戦する意欲を高めていくことが必要。

回答結果まとめ(平均年齢別)

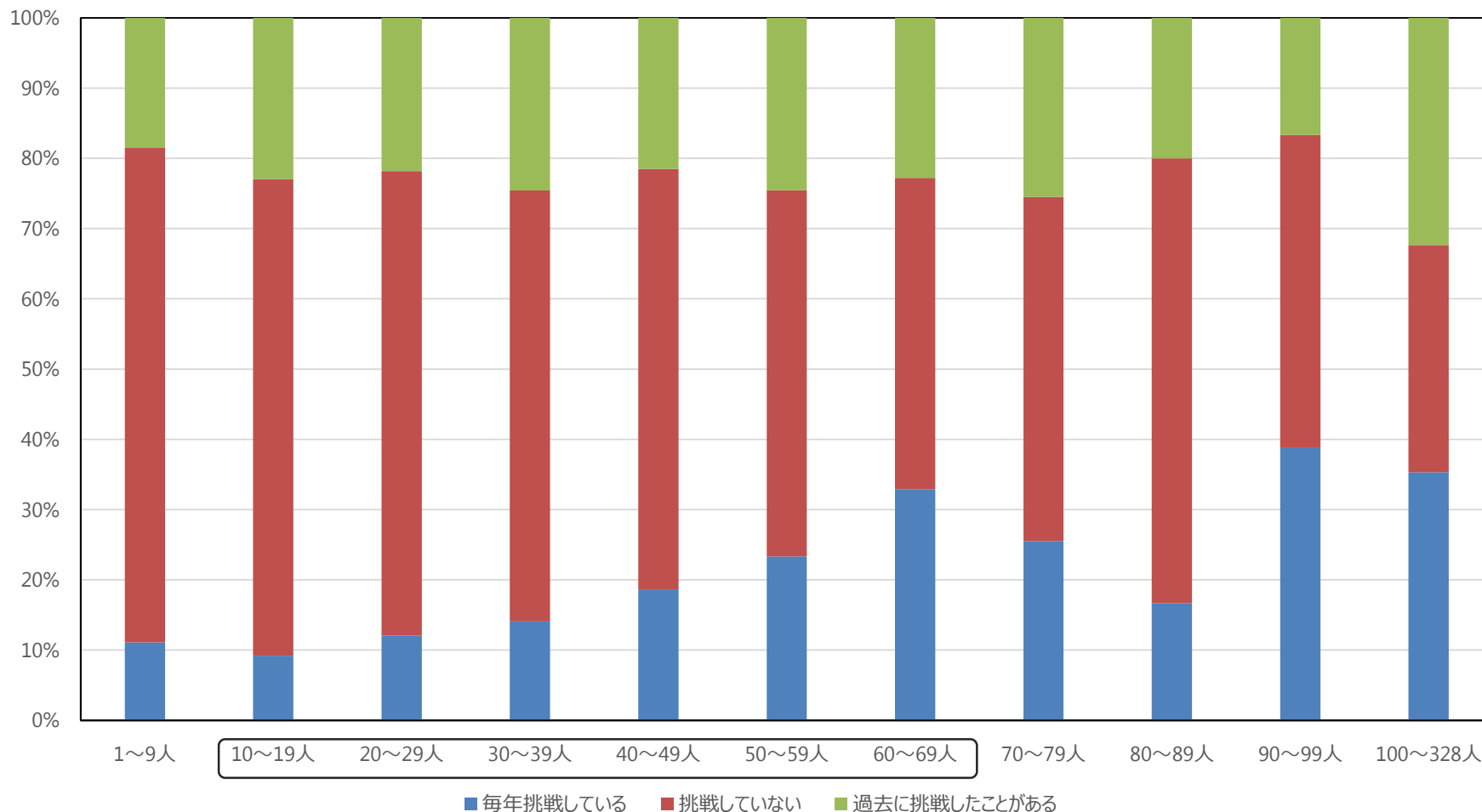
・RI会長賞に毎年度、挑戦していますか？



RI会長賞への意欲がクラブにとって関心が低いことがわかります。
平均年齢が上がるほど挑戦した経験が過去のものとなっている傾向にありました。

回答結果まとめ(会員数別)

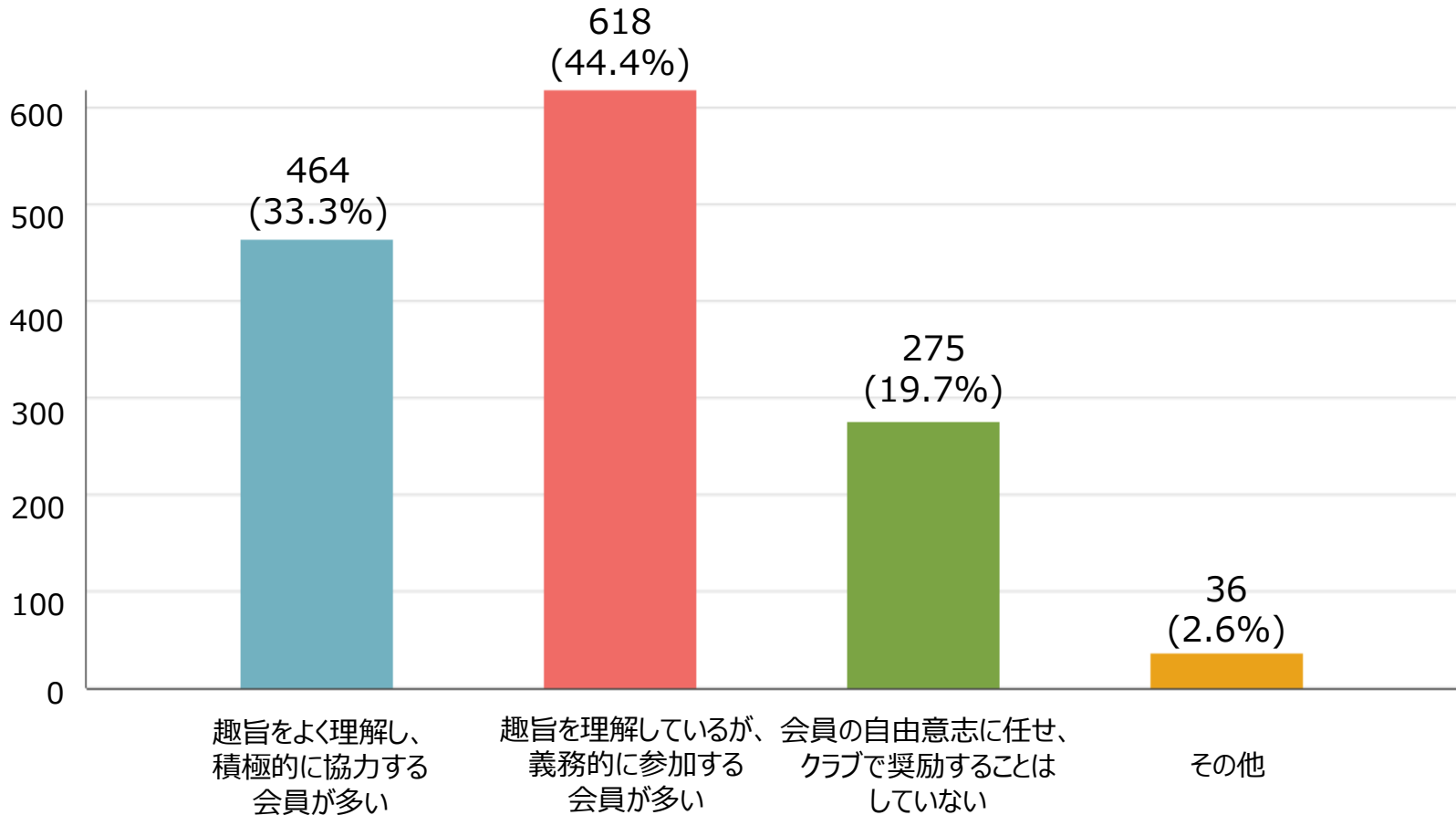
・RI会長賞に毎年度、挑戦していますか？



人数が増えるにつれて挑戦する意欲が高い傾向にあるが70人を超えると若干下がっている。

回答結果まとめ(全体数)

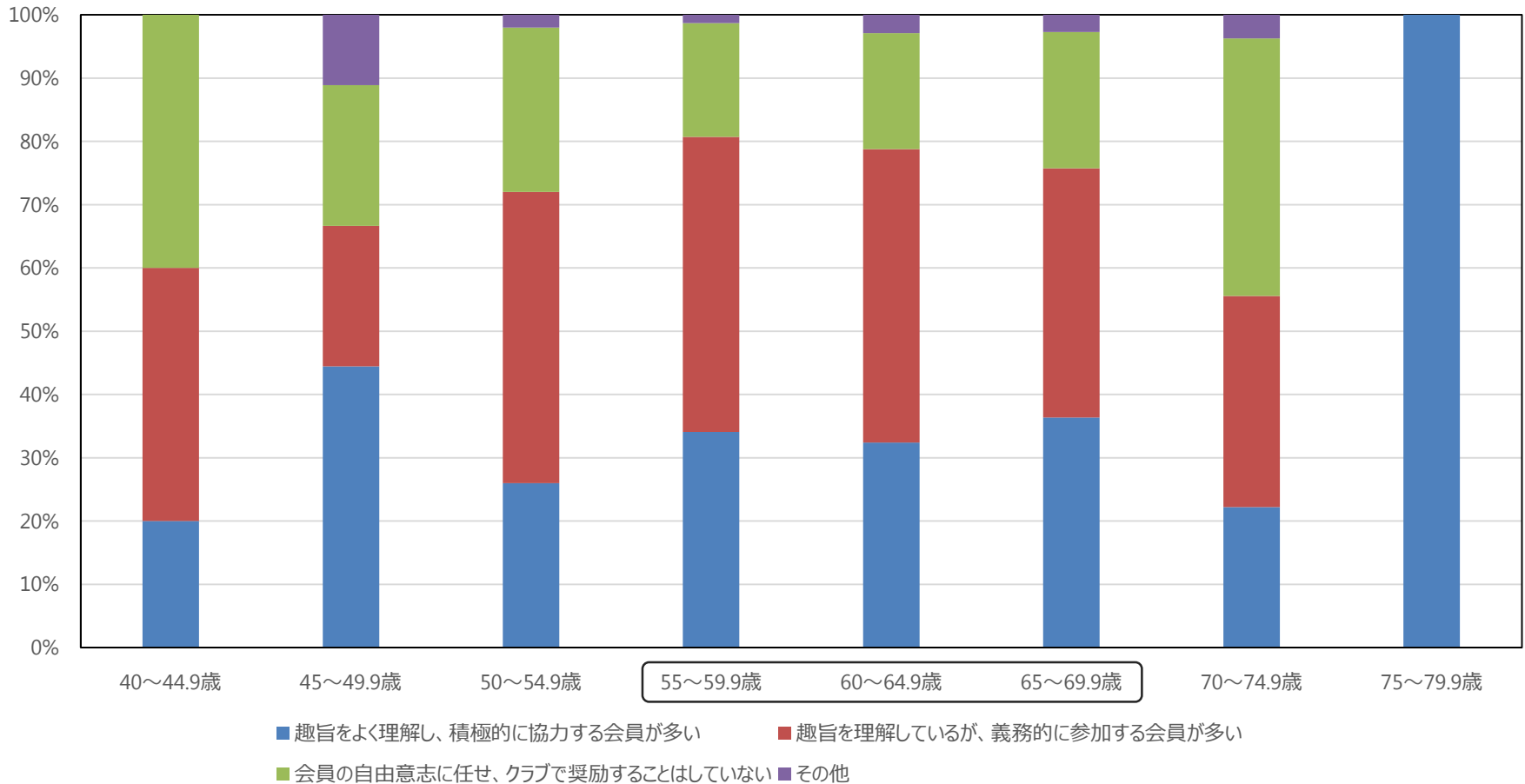
6. ローターの寄付に関する会員の意識について ・米山記念奨学会への寄付について



基本的にはほとんどのクラブで趣旨を理解しているという結果になりました。
しかし、義務的に参加している会員が多いクラブも多く、まだ必要性の訴求も必要かと思えます。

回答結果まとめ(平均年齢別)

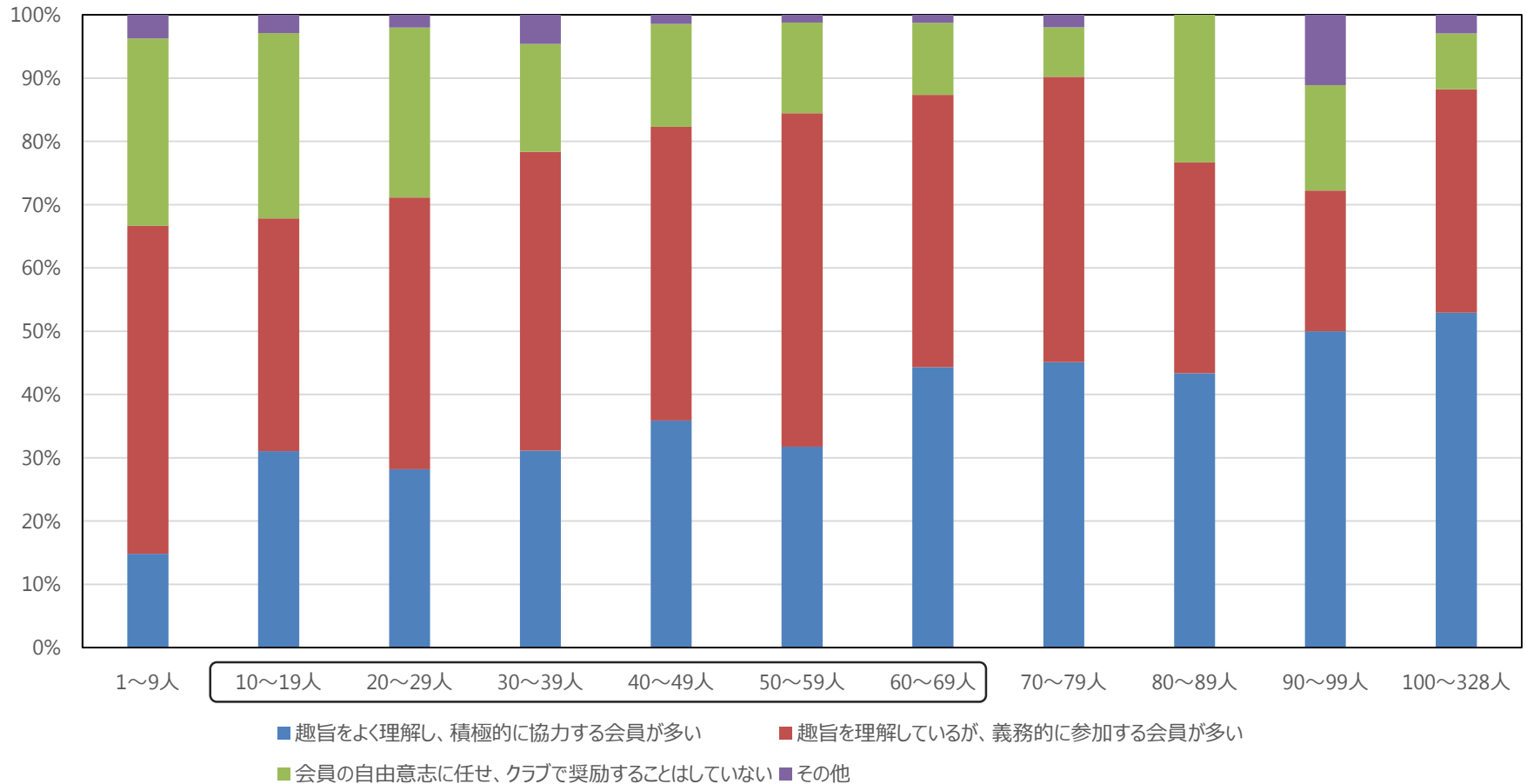
6. □-タリーの寄付に関する会員の意識について ・米山記念奨学会への寄付について



平均年齢別での違いはあまり見られませんでした。

回答結果まとめ(会員数別)

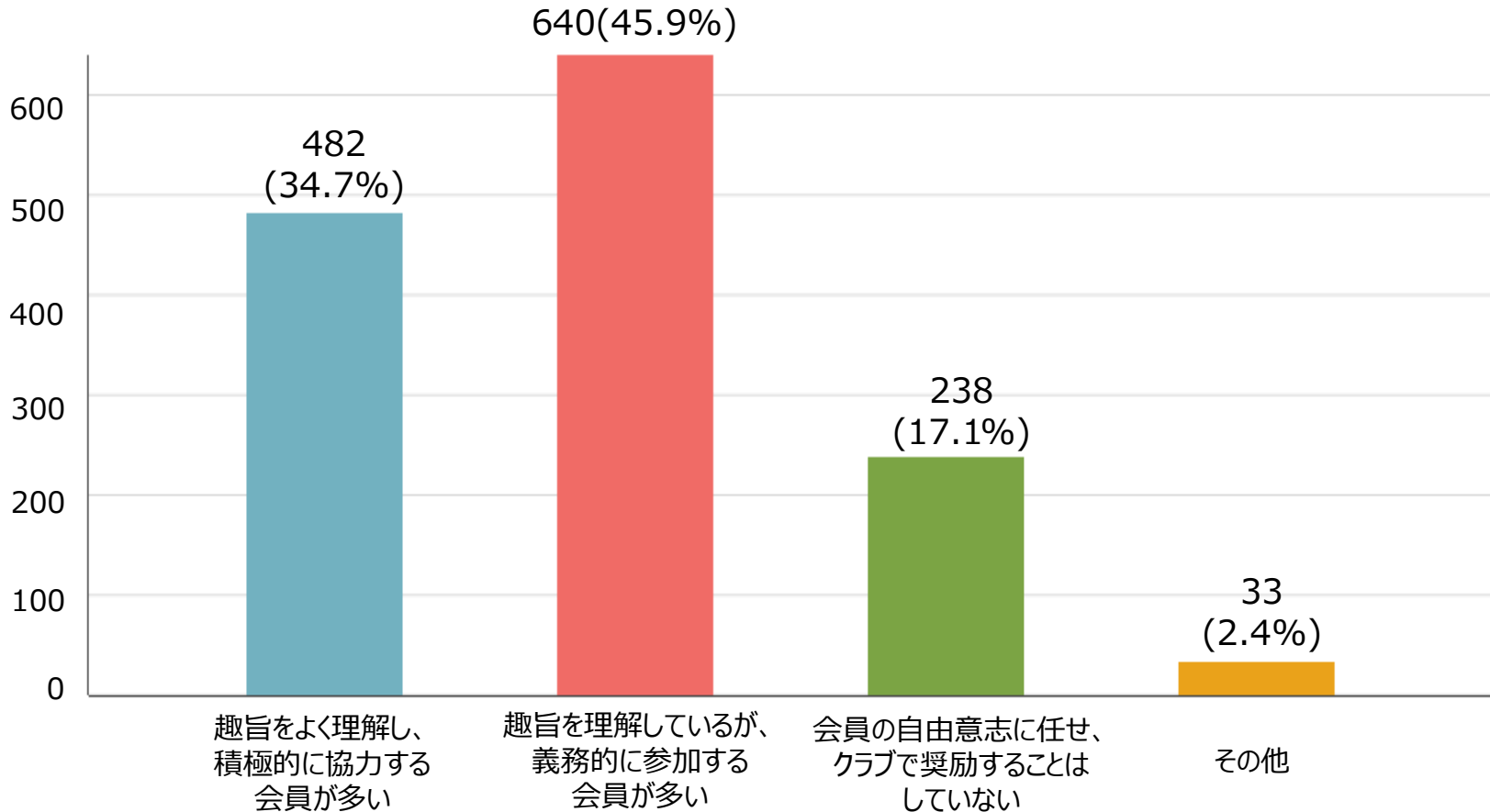
6. ローターの寄付に関する会員の意識について ・米山記念奨学会への寄付について



会員数が増えるにつれて積極的に参加している会員が多い結果となりました。
これは会員が多いクラブほど寄付に関する意識が高いのではないかと考えられます。

回答結果まとめ(全体数)

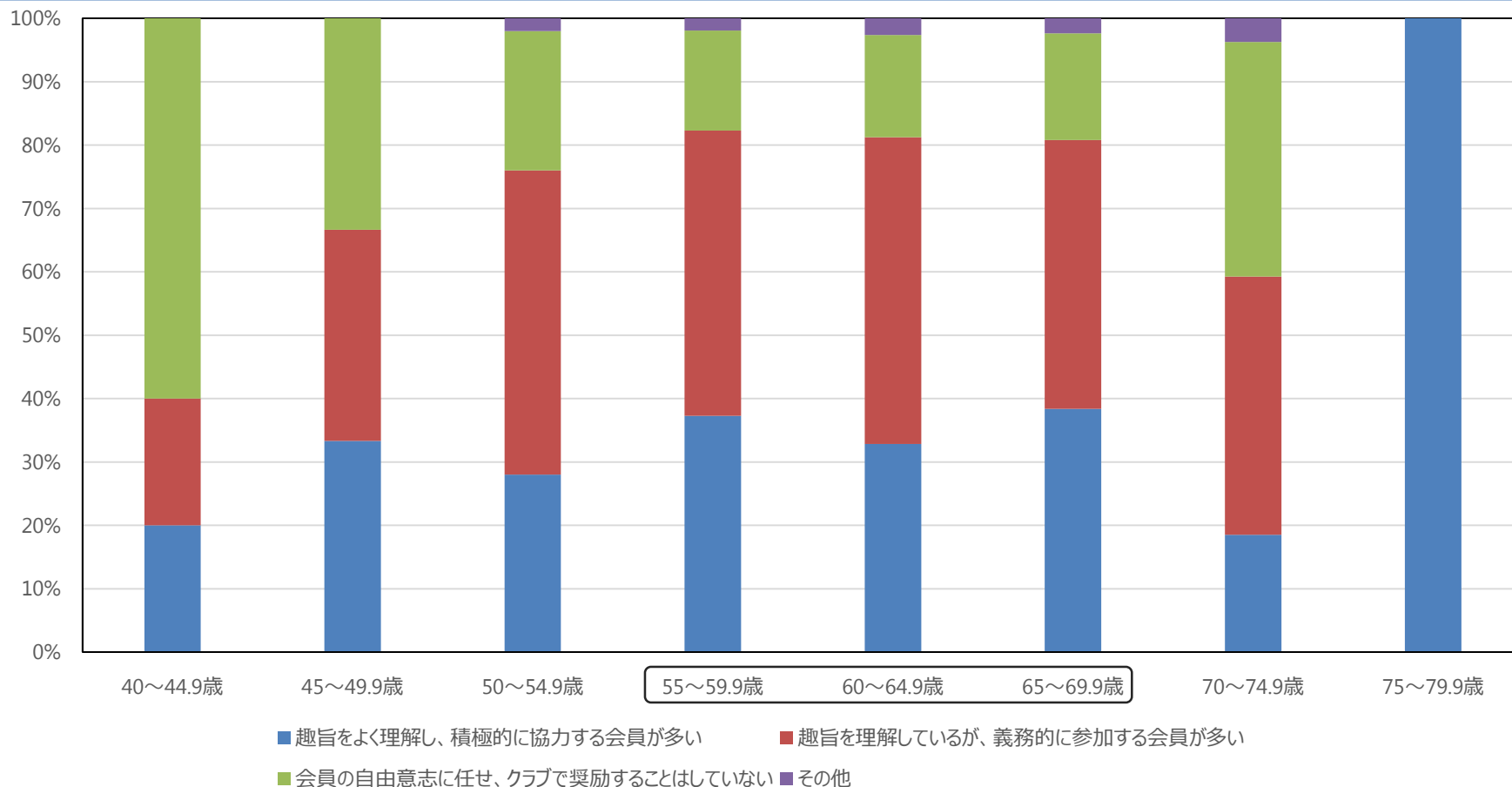
6. ロータリーの寄付に関する会員の意識について ・ロータリー財団への寄付について（年次寄付、ポリオプラス等）



米山記念奨学会への寄付よりも若干ではあるが理解している会員が多く、積極的な会員も多い結果となりました。

回答結果まとめ(平均年齢別)

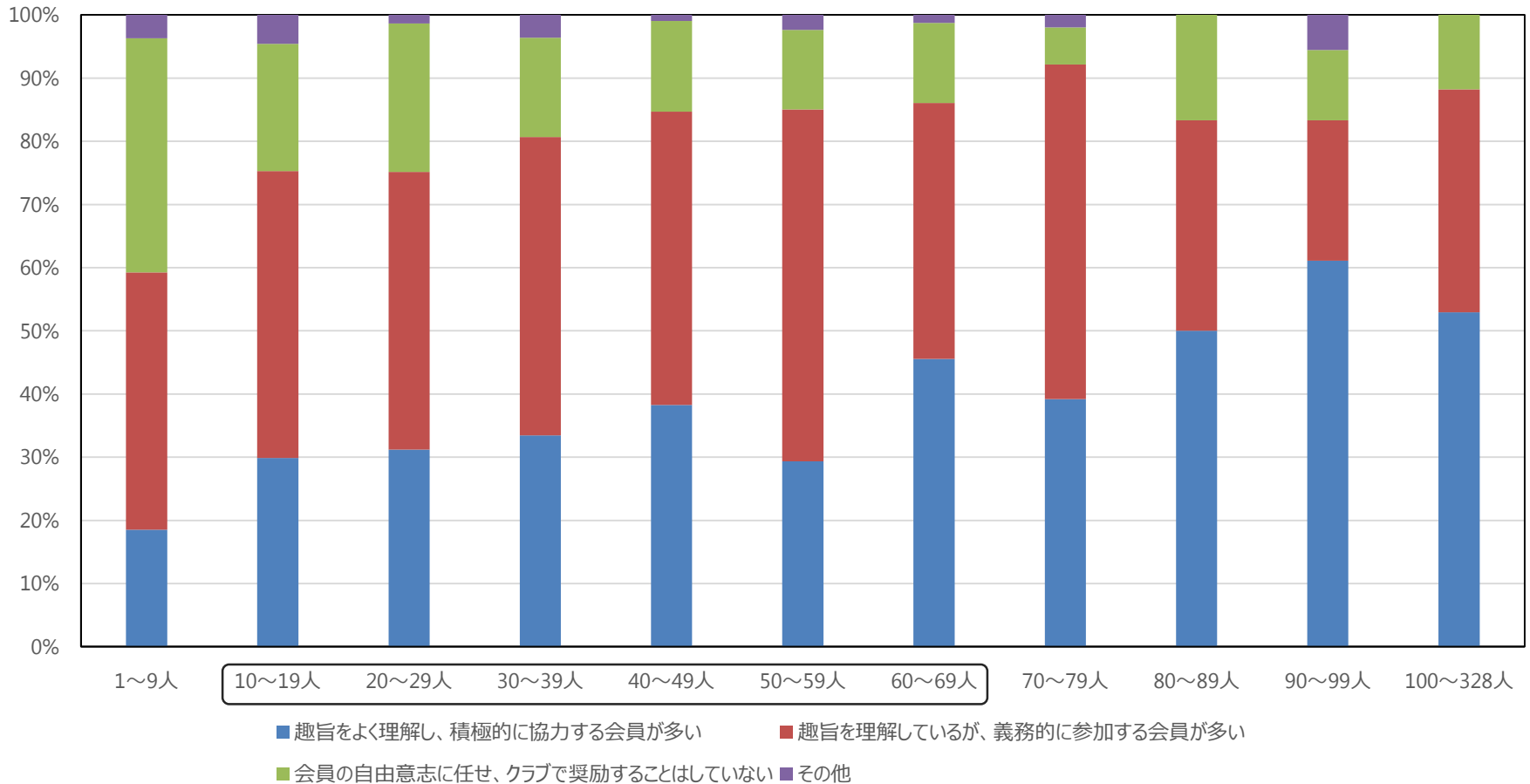
6. ローターの寄付に関する会員の意識について ・ロータリー財団への寄付について(年次寄付、ポリオプラス等)



米山記念奨学会とほぼ同様のグラフとなりました。

回答結果まとめ(会員数別)

6. ローターの寄付に関する会員の意識について ・ロータリー財団への寄付について（年次寄付、ポリオプラス等）



会員数が多いほど積極的な会員が多い結果となりました。
米山記念奨学会と同じような傾向になりました。